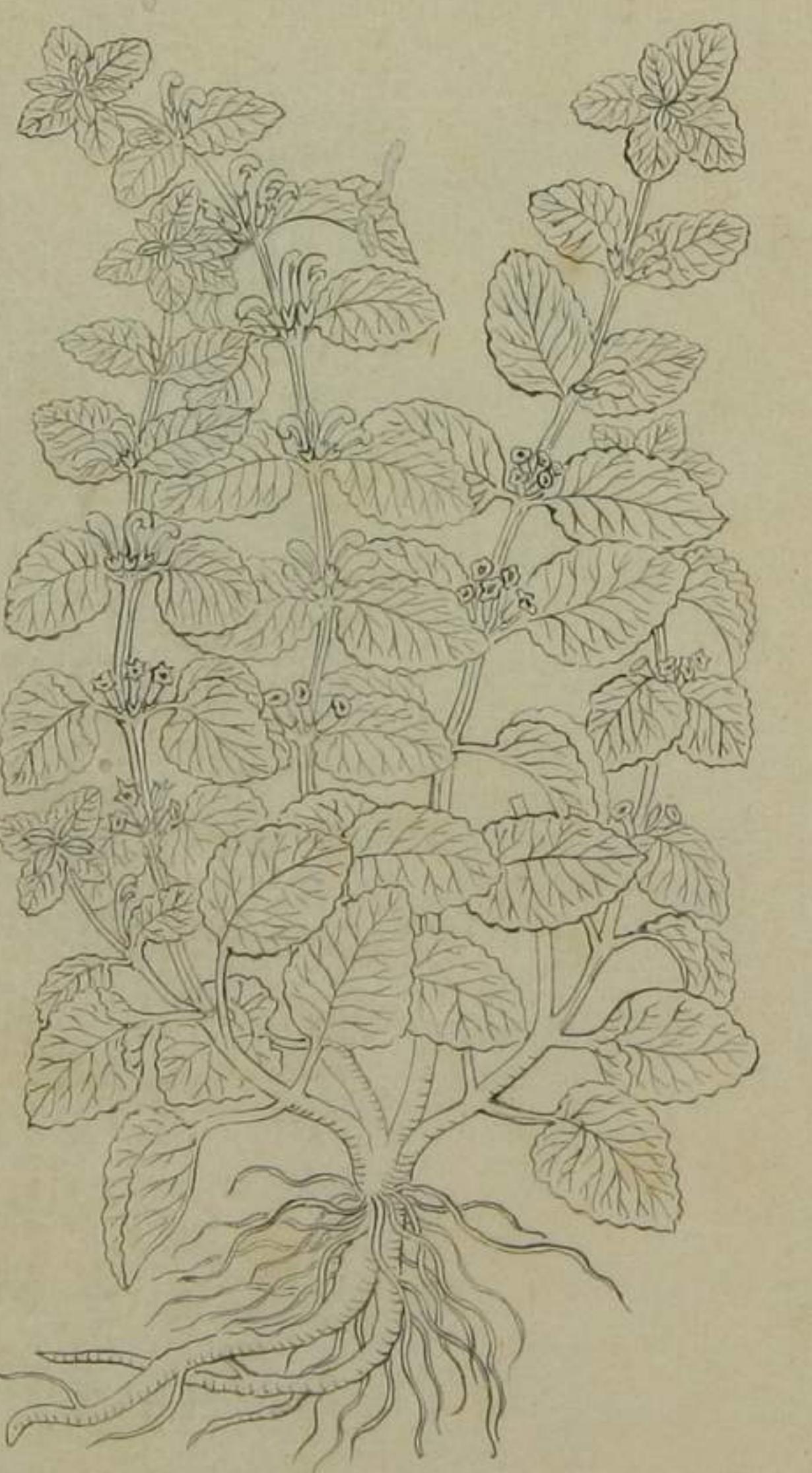


遠西草木譜 十七

第十七ヨリ廿三繪、古事記

二章

スミレカ



二章

二種  
シラシカ



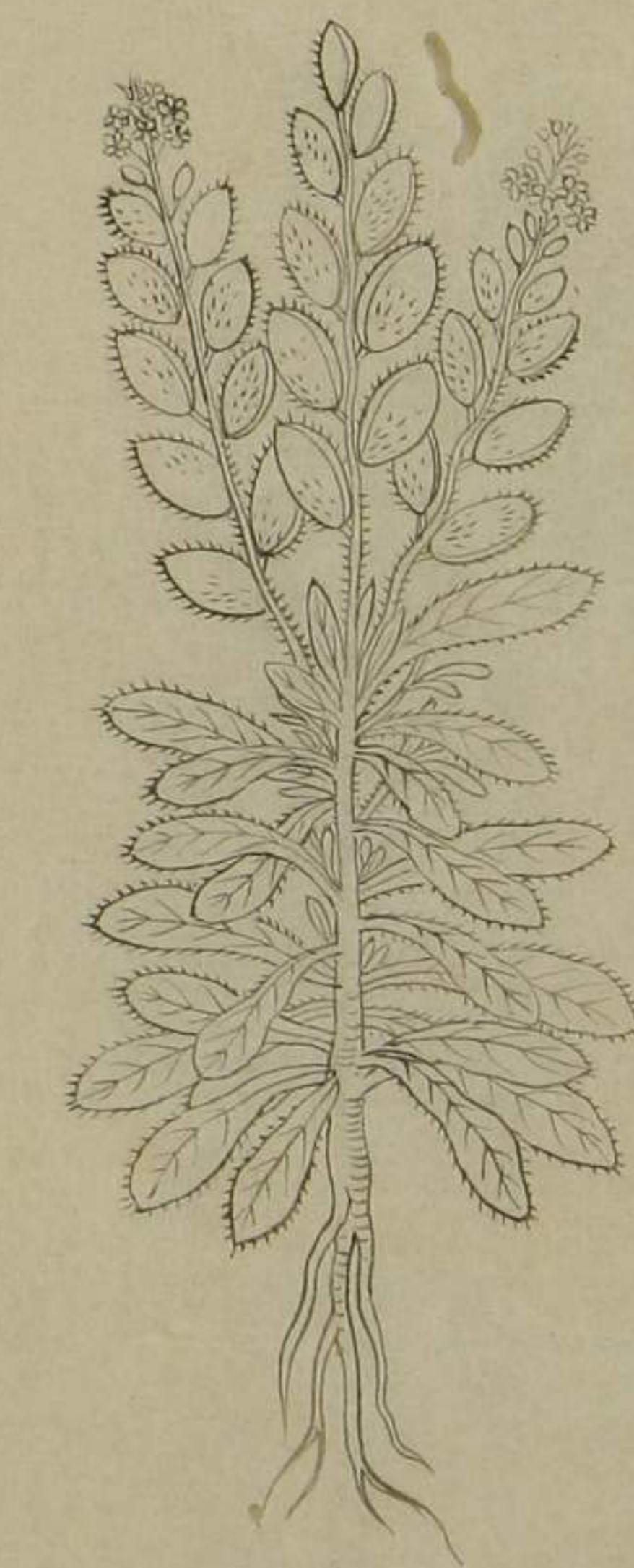
三章

スデリコラス

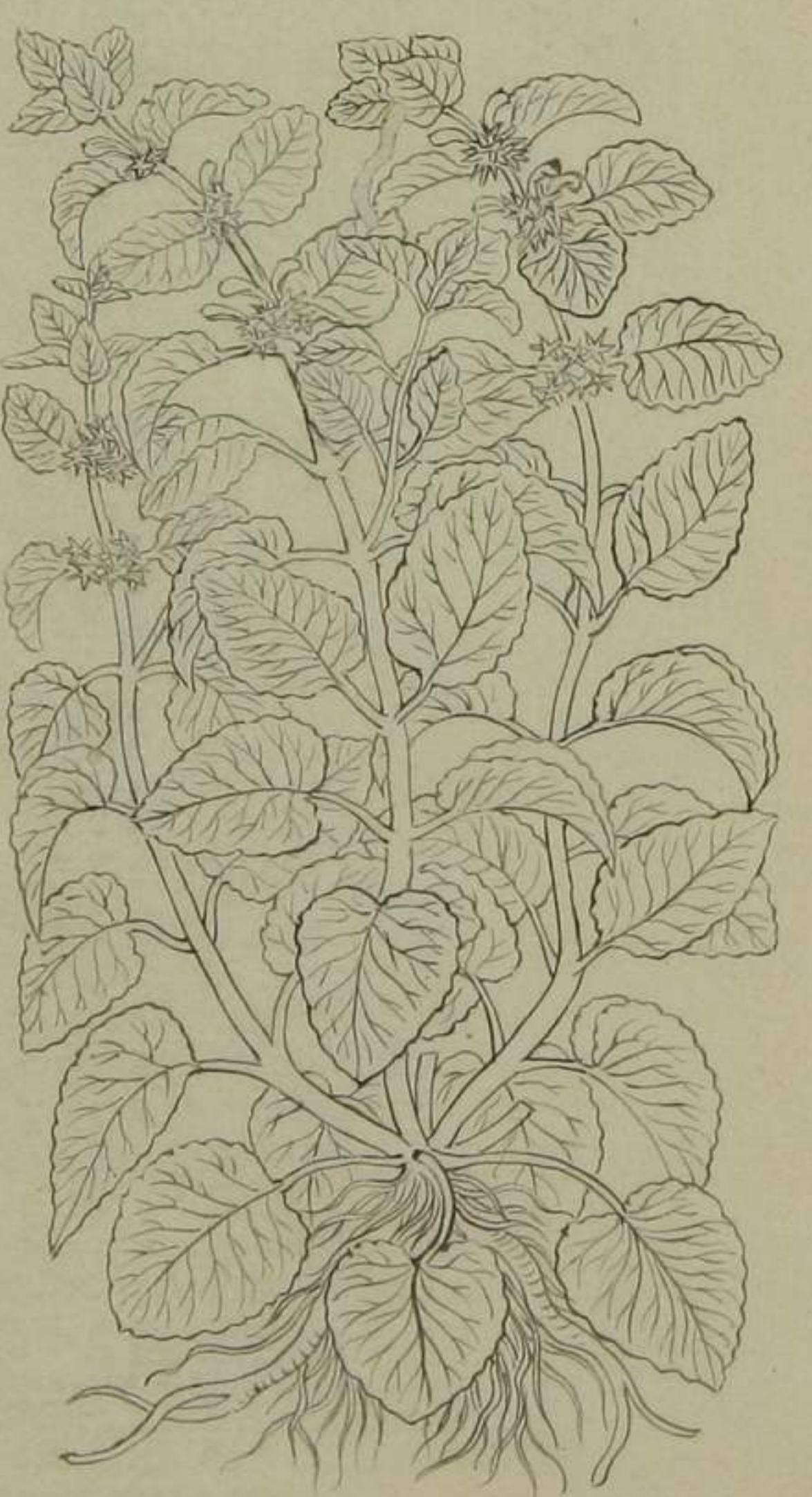


四章

ヘロルテテルスワ



スイセクス 章



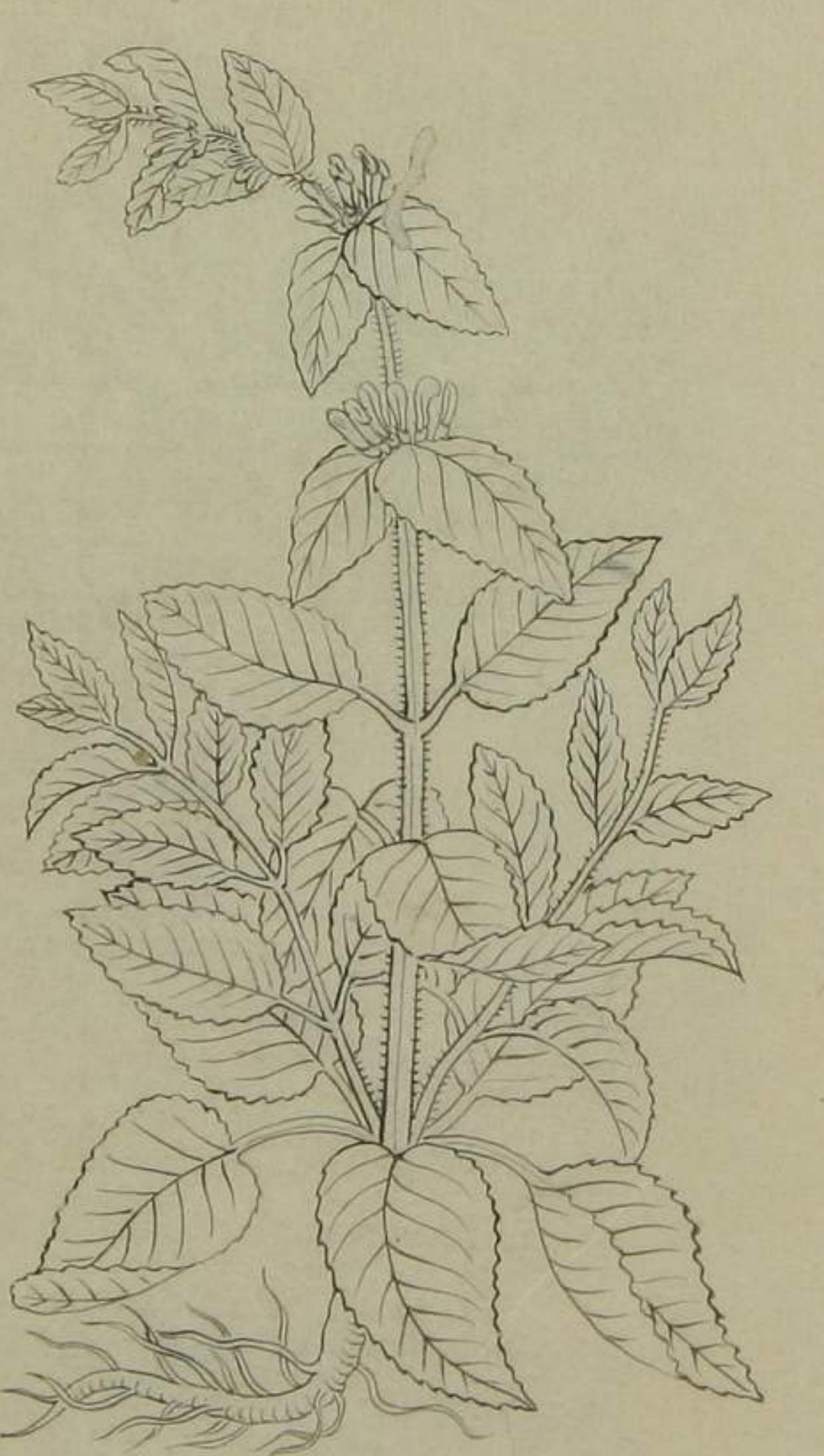
六六  
章

セスリメ



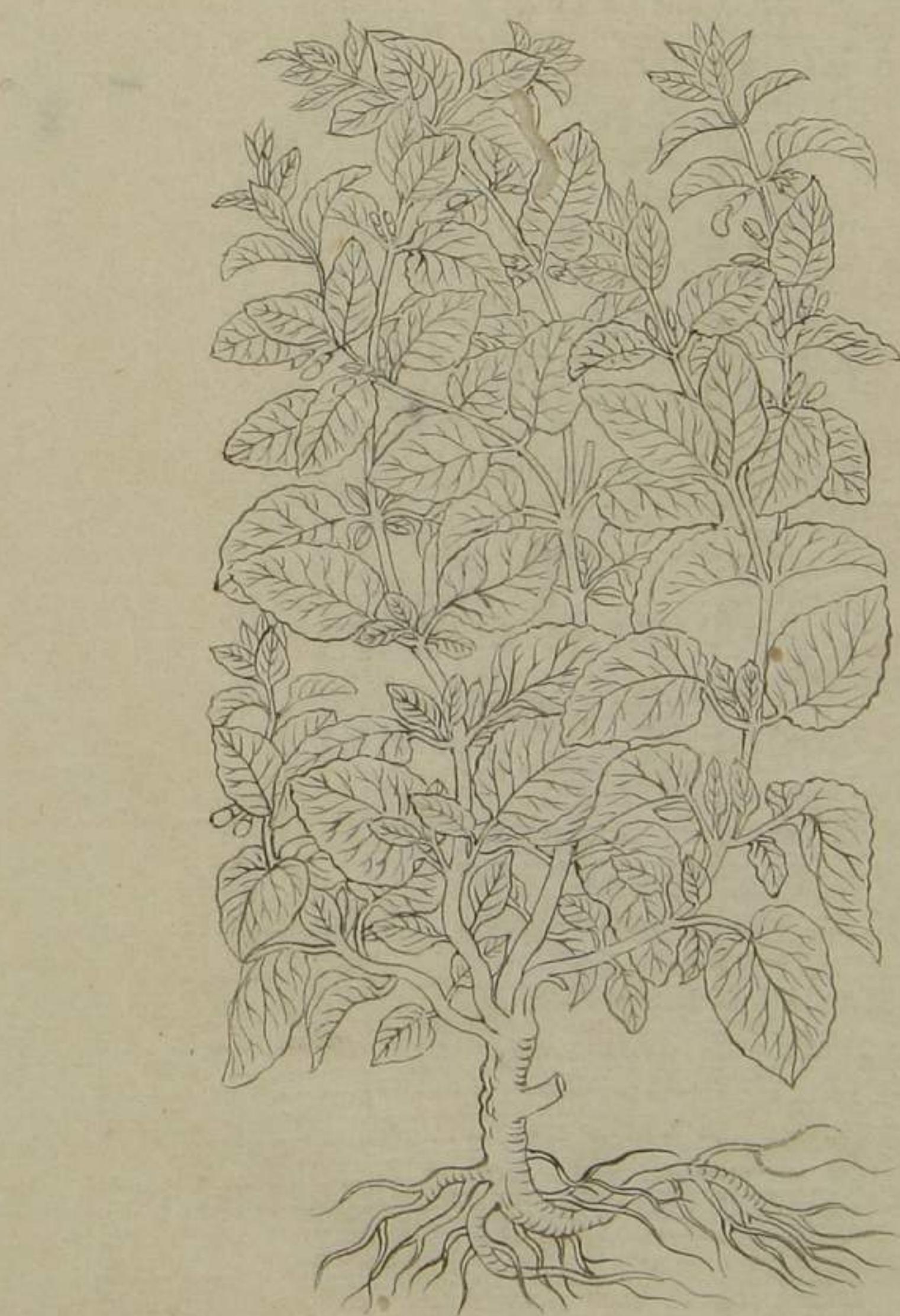
六章

種二  
矛



七章

カツモ



八章

トヨロコトリルギ



八章

リキ リコト トヨイニ二之種

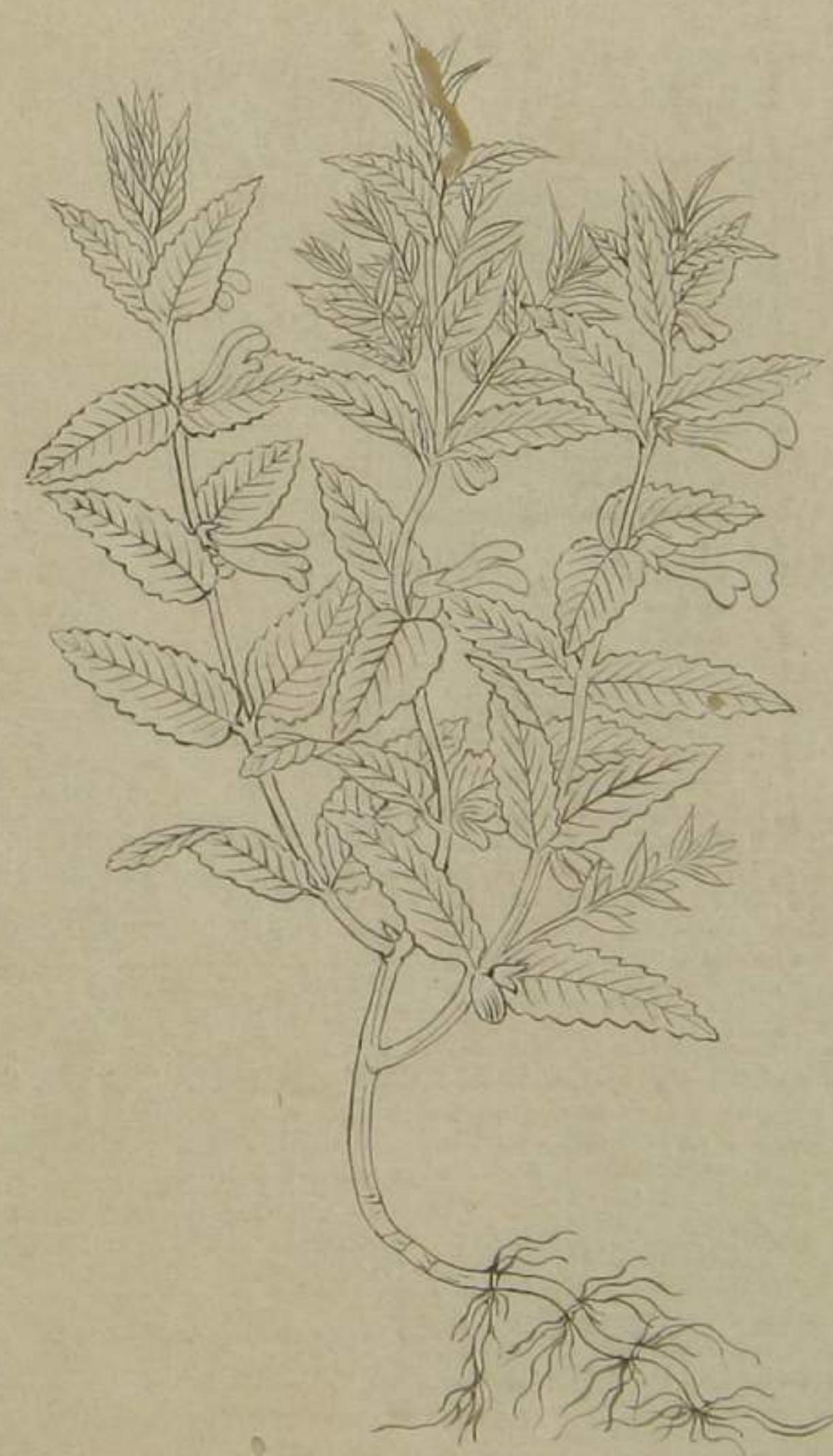


九章

ヘゲルスニ

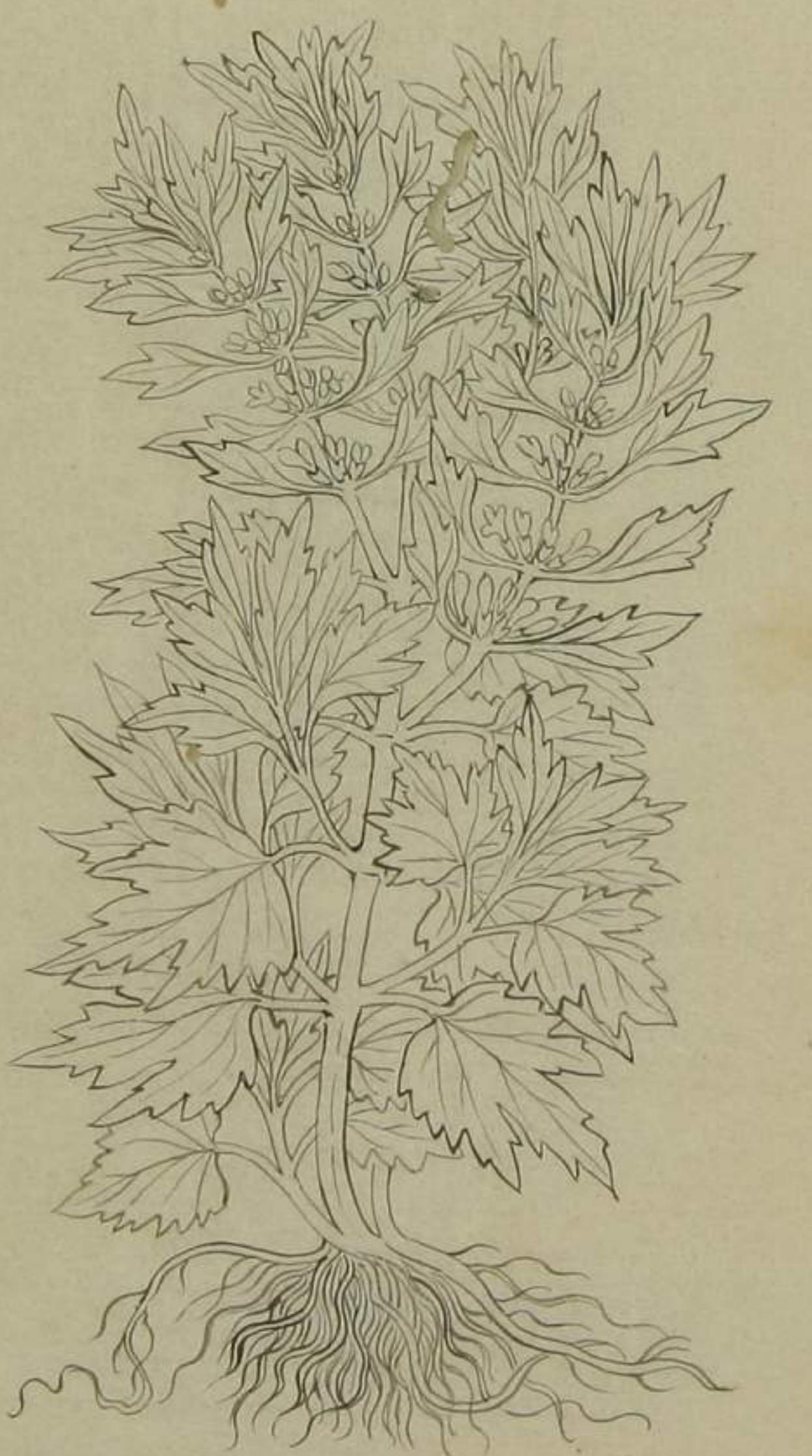


九章  
二種



十章

テンノ



十一章

テンニミデル空手



十一章



種二十一  
章



十一章

種四才



十一章

五種



草木譜第一部卷之四

凡例

今此卷ニ於テ羅甸名ノムルカタノ冠字ニ始ニル諸  
草ヲ說示シ而テ海内諸國ノ薬用ニ最切ナルモノニ  
シテ身體疾病ヲ療スルニ輕率ニス可ラザル所ノ諸呂  
ヲ收ム特リ尋常ニナ輕キアラクノミナラズ又重ク難  
キアラクニ屬スル者ヲ載ス

毛尾

第一章 フルロー 一名「アンドーレ」

和名「シキク 薄叶一種」

種類

「アヨスコリデス」ノ説ニ此物二種アリ一ハ真ノフルロニシテ

「ウナアンドー」ハ薄荷ナル也

コレラ 清香跡

ナウニハ 罗甸ニフルローレ 和蘭ニスワルテルロト

名ワク〇又二種ノ苗ナカリコレラ「フルロウエ」ノ種類ニ算入ス而チアレ  
スソビ、ト「ワーテルマルロウエ」トノ二種是ナリ第二十卷ニ出ス考フヤシ  
形状 真メフルロト 罗甸ニ「ルリュギュ」ト云即チ尋常ノモナリ此物  
方茎ニノ叢生シ高一尺許爾細色ニノ細濶毛アリ葉互ニノ兩々対生  
状圓クシテ鈍アリ葉邊齒刻アリテ又白濶毛アリ花白色盤フ刺アリ  
莢中ニ生ス花茎ヲ周リテ生レ花間少シノ隔アルノミノ輪ノ如ク見エ  
子ハ白ナ粗慥ナリ根黒色ニノ鬚多シ此草尤ナ香氣甘ナ愛スヘク  
少シク麝香ノ氣アリ久ニ比ハ最巨然リ

出處 凡道傍堤田畠閑豁肥壤ノ地ニ生ス諸家考モアカルトフロナレ  
但地ニヨリテ形状稍異ナリ甘茅莖亞麻「ライスティレイキ」蓬毛軍亞等  
ノ諸國ニミク生ス然氏「ホーフドイツ」或「ホーテルラン」生スルモノヨリ、  
甚自ク芳香アリテ且ツ葉少ニメ狹レ

時候

七八月ニ花アリ始メ生スルモノ冬ニ至テ根枯レス翌年芽生

異稱

「オーテルラント」ミテ「フルロト」「フルリード」「ウツアンドーレ」

ト「アーベルニヤ」ミテ「コロトベル」又「ウツアンドール」ト云諸厄利  
亞ミテ「ホーフド」ト云「ホーテル」ミテ「ヤブレクマサイ」ト云松節虫モテ  
コトリエビシ又「フルロセミニ」ト云意大利亞ミテ「コレロセヨ」ト云ヒ  
伊斯巴倫亞ミテ「フルリヒヨ」コルリヒ「コレロヒキ」トモ厄利勃哥王  
ミテ「アラヨシ」トモ羅甸ニ「フルリヒユ」ト云萬葉局ミテ「アラスシ古

又コルリビニは云然モアリビ云カンヂエト云是ヲ譯シテ  
コウラルローハト譯スコハルロツトスワルリヒトモニ對セリ  
ロアリレイウスハ此草ノ異名ラ厄勦奇更ミトコウハトリヨンニ又  
コイルロハレミコガメロホズイヨニセイノスヲシヨント云羅田ニテ  
アリテコラヤシニアフニセラリアシナド呼フ

**性効**ガレニス曰ク第二度ノ温ニテ第三度ノ燥ナリ味苦キニ依テ

肝脾閉塞ヲ緩解シ胸肺ヲ流溌シ經水ヲ通利ス

**主治**ヨリヨスコリデス曰ク此草ノ自然汁又ハ乾シタル葉及ニ子ヲ  
水煎レ蜂毒アリスヌテノイ加ヘ喘息及ニ咳嗽勞瘵アリトアレノ人ニ用エ〇又胸中ノ粘  
相湧ア驅涎沫ヲ吐セシム凡粘稠湧ア駆逐スルノミナラズ又眼汁

ヲ流清スルヲ得レ故ニ此草勞瘵及吐臘ノ人ノ要葥トス而チ勢ア  
加ヘス或ハコレニ稀涼ニテ酷膚アル冒寒傷冷之毒ナキ人ニ用エマシ〇  
ヨウリユスニヤニ此草ヲ以テ藥剤配シ及ヒ吐臘ノ人ニ用テ甚ア  
奇効ラ得タリ〇婦人產後惡露アリモトニ用エ又用エ又破乳  
胞衣ヲレ經水ヲ通ス〇又毒氣アラ服シタル人ニ用エ或ハ蛇  
咬傷ヲ治ス〇葉を蜂毒ヲ加ヘ用エリトキハ汙穢ナル腫物ヲ  
流溌シ又凡ノ惡性丸潰瘍及ニ浸淫瘡ヲ拒ケ宜ク外傷ス  
ベシ〇葉アリ自創汁ヲ丸湯ヒ曝シテノ如レ前症ヲ開エリ  
モ直後眼中ノちかくモノク治ス〇往久ノ耳痛ヲ治ス又コモ  
薺微ノ油又レ用エルモニ亦佳ナリトヨリスコリデス云ヘリ

附考 「マルロ」

第二ノ

「スバーンセマルロ」コドラニウスカヌミニ國<sup>奉ル</sup>モトコロノ「ウツテマルロ」ニ因<sup>チ</sup>此草ト異<sup>ル</sup>トコロアリ而チ「ドニ子ウス」ノ既ニ「ルロ」ハモ出處ニ依<sup>テ</sup>甚別アリト故ニ「ローヤル」ハ此國ヲ用イテモ「スバーンセマルロ」ニ羅甸<sup>シ</sup>「コルリュビユムカン<sup>ジ</sup>ギムアルテリュムヒスバニキユ」ト云モ、形<sup>シ</sup>頭<sup>セリ</sup>然<sup>ニ</sup>此草ナフ<sup>テ</sup>此國<sup>ニ</sup>比<sup>ス</sup>ハ而オナト直<sup>ナ</sup>ルロヒミ比不<sup>ハ</sup>葉長ノレテ肉多<sup>ク</sup>毛アリ白ク味酸レ又別<sup>ク</sup>「ローヤル」カ「スバーンセアンドーレ」ト云モアリ此草ハ「スワルテ」ロ<sup>ヒ</sup>ニ近<sup>シ</sup>

「マルシウス」一種ノ「マルロ」此草「ローヤル」ノ「スバーンセマルロ」ト是異<sup>シ</sup>而メ「マルシウス」コレラ「イスパニヤ」ノ福山ニテ多得タリ又「ラーステ」<sup>シ</sup>及<sup>テ</sup>其近傍原野<sup>ノ</sup>燐也<sup>シ</sup>七月ニ花サク然<sup>ニ</sup>彼地<sup>ニ</sup>於テコレラト云疑ラ<sup>シ</sup>セラヒカコルハヤシキサシナラシカト<sup>ア</sup>ナ<sup>リ</sup>茎根ヨリ葉取生シテ高天半<sup>ク</sup>アテ強ク節多<sup>ク</sup>枝ラ<sup>ク</sup>カナ<sup>ク</sup>每節兩<sup>葉</sup>對生其長サク甚<sup>シ</sup>而<sup>シ</sup>倍ス邊鋸齒アリテ真<sup>ク</sup>ノ「マルロ」ニ似テ狹クレテ圓<sup>ク</sup>ズレカノミナラス本狹ク中澗クホ尖<sup>ク</sup>コ<sup>リ</sup>望<sup>ク</sup>ニ<sup>シ</sup>ク爾袖色香悪シカラス味辛苦ナリ花白<sup>ク</sup>ノ「マルロ」ノ如<sup>ク</sup>頭<sup>ニ</sup>蘭袖色毛夷<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>生ス莖<sup>ニ</sup>有<sup>ク</sup>固<sup>ク</sup>着<sup>ス</sup>根<sup>ニ</sup>華常<sup>ク</sup>「マルロ」如<sup>ク</sup>年々新芽<sup>ヲ</sup>生<sup>ス</sup>

名義

此草葉ら<sup>ク</sup>常ニアラスシヨ<sup>ト</sup>云然<sup>ニ</sup>別ニ「アラス」一名「アラスシヨ<sup>ト</sup>」モアリ而チ「アライ」ナリコレト混<sup>ス</sup>やカラ<sup>ク</sup>然<sup>ニ</sup>「アライ」色或<sup>ハ</sup>其香ノ佳ナラサル「アスカルテ」ノス<sup>ル</sup>テ<sup>ル</sup>ロ<sup>ヒ</sup>ニ似タルカ故ニ此白シテ芳香アリルロ<sup>ヒ</sup>モ亦アラスシヨ<sup>ト</sup>云「キリシヤ」置<sup>ク</sup>同種アリ毛根<sup>シ</sup>シ<sup>ル</sup>「アラス」又「アラス」ノ解<sup>ス</sup>「アリクサ」一名コシヒリ<sup>ク</sup>デゲレイシ<sup>ル</sup>也

**主治**

コルロハアラウリスブルノ名ードローゲンイリスノ根ニ合  
服ニテ胸中ニ薙ニ猪瀉ヲ解ノ○又婦人難産ヲ癒ス。傷テ毒ガ葉ヲ服  
者或ハ毒虫咬傷ヲ癒ス○此草ノ葉ヲ内外ニ用テ胸腹痛ヲ癒ス。又  
葉ヲ丸シ醋ニ和シ要性ナ漫滌シ「カラウリキ」フ疾ス○此草ノ  
用ツテルロハ内外ニ用テ。ワイヤヘル及フルテル。功ツリトアリニウニ  
及ガレニエヨミヘリ。葉自細ケ。服スリトニ見能ク。童痴ヲ治ス。又  
功ツリ。葉茎葉脉皆筋ノスルアト。及は腐ノ。筋病。必用ナリ。又「スル  
テニシヨシタキニテニ最モ良ナリ。此草ヲ以テ「舍利別」  
、セイリヒュス。ザアラスシヨトモア久シク治セサル。肺病。粘液ヨリ癰生  
ニ至ラム。効ツリ。コルニヤ。ニテ此草ニテ。寛葉ヲ。加々リ。ナニ草。叶  
ナホト子ラ。無子白ニテ。青々。安トコトグテシワス。トラ加ヘ。ナリ。ナス  
及骨傷ヲ。瘡ス。又解ク。鶴骨病ヲ。解ノ。コウツラアルロコト。自細ケト  
マニル。ノ角。ヤケト。ラ合シ。ナラニ。ト。アト。ト。一。身。ラ。服。ス。ハ。經。久。ノ。喰  
嗽ヲ癒ス。コルロハ葉三錢油ヲ加ヘテ。颈ノコロツヤニラ。アリテ。シニ  
シリツフルドウイ子ビス

**根害**

「コルロハ」ハ胃膀胱ニ害アリ。毛モナ部。挫傷沒損  
痛クルモノ。用テ易シ

第二章 「ガレニス」ノアレイスソニ

**種類** 此物「アンドーレ」一名「リューニー」ノ種類ニ算入セントスレモ  
「ガレニス」ハコリロヘノ種類トスルヨリハ「アレイスソニト名ツクルヲ勝テ  
トストキヘリコレ依テ「ガレニス」ノアレイスソニト名ツクルナリ

**形状** 此草狀ナ全ク「アンドーレ」ニ同ク其莖モ亦苟多ク潤葉生ヌ既モ  
「アンドーレ」葉ヨリハ小サク皺文多ク白色ニテ香氣レ花ノ房莖ラ  
周リテ着ス粗慥ニメ尖レル刺アリソレヨリレテ「アンドーレ」コトヲ花也  
然モ其色紫ニテ目シテモ「アンドーレ」似タリ根堅ク木ノ如ク繁衍ス  
**出处** 「チーデルラン」ニハ野生ノモノナレ伊甸紀傳亞ヨリ來ル種植ス  
召ヨリスキリシウムハ「イスハニヤ」原野ニ自生スルモノ見タルヨレイヘリ  
**時候** ハイスバニヤニ於テハ五月ニ花アリ且ツアルクタリカタシ

**異称** 「ギリシヤ」ニテ「アレイスソス」又「アレルス」ソシト云羅國ニテ「アレイ  
ス」シト云「ガレニス」曰ク此名ノ原ラ尋ルニ猶大傷ヒ奇効アル  
依テ名クト此更殺人ノ著書曰「アンチド」ノ第二卷ニ見ヘタリ其說  
「アントニエス」ノ合剖ラ貴重セリ而タ曰ク「アレイスソス」ハ「マルロ」ニ其  
似タル一種草ニテ其「コクダ」ノ邊キ、粗慥ニメ刺多ク花色紫ニテ少ク音ラ帶ト  
**性効主治** 「ガレニス」ハ單味能毒篇第ニ毫ニ失心風ニ用テモ  
功アリ然モて物ノ質ラ以テ致スノホ何則此効ネハニタルヤレシニ  
ラ以テ知ルノシ其理知ヤカラバ。○若レ此草ナラ病者ニ告ヘント欲セテ  
ガレニス」ノ後ニ依テ考レハ甲等ノ燥ニテ消化レ少ク滌除ノ功ラ  
蓋ルト知ルノシ故大陽ニ当リ面部ニ「スアルテ」コフレケシノ生スル事  
ル。○前説ノトク猶大傷ヒ奇効アリ

附考 卡レニスノ マレイソニ

此草ノ観ハ初テ「カロリスナリエウス」キニアツ何者「アリュレウ」ニ初テ「アリュニヤ」ノアリエラテルザリエトニ於テコヒラ見テ始テ種子ヲ「アリュラン」トシ、将来セリ其状コテタラニヒ一名「アリトヨロイド」トニ似テ又アンドーレシテ能似テリ如何者コテ多ヒ止ハ「アレイスソ」ヨリ「小ナリ」コアースソンナ「コル」ヘヨリ少ルか如シ此草ヲ福ニトスルモノハ「ホンダ」ヒテ極弊ノ日リ撰ラヤレ葉アリ味苦シ聖草「カユ」トウヒト花ミ「アレスソ」ヒリ生スル四オナリノ生セサルヘ「柳」サリ石生此草「アレイスソ」ニミリ近似セルモニナレ「クリエウス」イヘリ又コリロヒテ似ケル「明ケ」シ何者コルロヒ香ナク又其花ヲ開クトコト「カイスケ」ニカ朝ナラヌシテ却テ堅ナリ刺アリ花ハ白カラ妙シテ却テはあも

「コーストルアリキ」アレイスラン此草曰「アリス」「アリス」ハレイ「アリス」スレイスソンフリュナカニス「アリス」ダヒト云ア然ニ予幸多々ア御スル所ノ「アレイスソ」ヒト似カム依テコレ「セイチ」ニシノ章ニ観クシ

「アレイスソ」ゼルニキム「エシライデス」コレモ同ヤルノ書ミナツ唯其名回シキ而モニシテ其形ノ相似故ミコレ今ニ「エシ」ノ章ニ観「アレイスソ」イタロリヒハ「タラス」ノノ一種ナリ故ミタラスニノ傳コレ税ノ又「アレイスソ」ニキムトモノモ「クル」ニウヒノ説ア引テ有

看ナム也ス

「アレイスソ」アリニウヒ「カロリススクル」レウスノ税ミルチ羅國ニアスペルラドラテスヌストム「アリド」ヒコフルメーストルヒトキア

「アレイスソ」ニテヨリ込「ドナラード」、於テ凡疎即ニ生ス花黃ニ或・黒色ア常紫アリ土俗腎膀胱中結石ナムスル甚功アリト云故三名「アリス」カラウ止ム

第三章 ヨラスコリデスノアレイスソニ

形状

ヨラスコリデスノアレイスソニハヨラスコリデスノアレイスソニトハモ

黒アリヨラスコリデス曰「アレイスソニ」ハ灌木様ノ草ニテ單莖ニ濶毛アリ葉曰ク実ハ「シキレ」ラ合セタルガ如シ甚申ニキアリヨリテ微扁ナクトミアリ之園テヨリ久シ一種ノ草ヲ以テ此貌ニ充ルモノアリ其草單莖ニノ高一尺许始メ莖ニ先タチテ生スル葉アハ圓ク後莖ニ附テ生スル葉ハ微闊テ長ク濶毛アリ爾細色アルト莖ニ同シ花ハ莖先ニ連リ圓シテ白色花後粗隋丸莖ヲ結フ内ニ扁メ闊キナアリ其狀曰ヨリーレンノ如シ根細多シ出處ヨリヨスコリデス曰ク山或ハ不平ノ地ニ生ス

時候

爰ニ記スルノ草ハ「ヨードル」ノ園中ニ見タリ七八月花アリ後莖ノ宿

根部

ヨリヨスコリデスニコレラコアレイスソニト云ハ御大傷ヨリ癰スルト所ノ在癰

ミ陪スルニ由テ此名アルニアラビ即チ既レツムルニ由テ名ツクニ何者危勸  
奇亞語ニ「レイスサ」ト云ハ在亂スルモノナニモナラス又ヨシキラコイスソニト  
云ニ因テ名ツク故ニ「ニッキ」ラ以ラ名ノ根元トス〇又ヨリヨスコリデス黒名ラ  
コアスニヨント呼フハト冒ノ義ナリ莖ノ威曾ヨシタルニ因テ名ツク〇  
又「ハプロヘイルロ」「アクセイセロ」「アデセロ」「モノカウロ」五名ツク〇  
右ニ舉ルトコロトニ種ノコアレイスソニノ外ニ古人ノ所謂コアレイスソニアリ是  
ヨーネウニ書第一巻ニ「シテリキスヘラクレア」ハ即チ「アレイスソニ」ナクト  
云ヘリ〇又ヨリニウムノ說ニハ「アレイスソニ」ハア「」一名「リュゴア」種類  
ト云フ予本草ニコレヲ說ケン

性効主治

ヨリヨスコリデス曰ク此草ヲ煎シタル服スルハ呪逆止ム  
但熱病ニ因テ發スル呪逆ニアカルナリ〇此草ヲ掌ニ握リ或ハ嗅クサハ

亦吃通ラ止ム〇面部は膚ノ傷為テ治ス「スアルート」<sup>卷頭</sup>或ハ「アブラン」<sup>班痕</sup>レラ去  
ルニハ毒ヲ加ヘ搗キ面ニ塗ヘレ〇此草ヲ搗キ食物を加ヘ用ルトキハ狗大  
傷ヲ治ス〇此草ヲ象中ニ御ルキハ人及ニ畜類ヲ護リ邪氣ヲ防グ  
〇羊及畜類ニ病ニ此草ヲ紫木綿ニ包ミテ得ルトキハ治ス

附考 「ヨヨスコリテ込ノアレイスソニ

此草葉「ヨシラン」ノ葉ト少ク似ナリ然ニ其莢ハ「タラス」<sup>ヒ</sup>ノ莢ニ甚相似、  
タリ「タラス」ハ「ヤンニツキブルー」ト云フ或ハ「ボボナ」ト云然ニ此草  
碩學者「カロリヌスクリュレウス」<sup>ヒ</sup>書ニ「タラス」<sup>ヒ</sup>呂類ノ後ニ載セテアリ  
スソシミミシトエア「ヨヨスコリテ込ノアレイスソニト其貌全ク相似ナリ

『最小小アレイスソニ一根叢生ズ又一莢アモノモアリ高一尺ニシタス莖細  
シテ紫色コシニ多ノ葉乱着有ヌ爾艶色ミ「アラス」<sup>ヒ</sup>ノ葉ヨリモ大ナリ  
味微酸ミ<sup>セイヘンナカルス</sup>延<sup>シテ</sup>出茎頭花アリテ「カラシヌケニス」<sup>ヒ</sup>者變ノ穗トナル花後「シキニテ」<sup>ヒ</sup>ス  
小ニテ黃色ヲ帶フ其「カラシヌケニス」<sup>ヒ</sup>者變ノ穗トナル花後「シキニテ」<sup>ヒ</sup>ス  
ラ筋ノ四ナ塊多シ初緑毛熟ノ黃毛内ミ少ル丹<sup>アラカニ</sup>色ノ子充  
ツ根白シテ鬚多シ冬根枯ルノクルシウムノ花ト「アーステロイキシム」<sup>ヒ</sup>ス  
野生スルモノアリトエヘリ四月中花サキ或ハ五月ニカルトモアリ  
〔主治〕「ドジニウス」<sup>ヒ</sup>ガ參ニ載スルトヨロノ草ハ「イタリヤ」<sup>ヒ</sup>ニテコレ<sup>ヒ</sup>真<sup>ヒ</sup>ノ  
ヨレイスソニニ免ツ而テ彼土ミテ剪けトナシ特在犬咬傷ヲ治スル  
ノミナラズ又ユレラ狂犬ニ飲レラハ其病必愈エ

第四章 「スワルテマルロ」一名「ルローレ」又「スキンケニアードー」

**形状** 此物「ルローレ」別種ナリ丸テ其形「ラウテアンドーレント」全ク相似タリト雖モ白カラズシテ黒ラモリフ杏甘カラズシテ重フ好カラズ此草方茎叢生シテ直立シ濶モアリ葉闊メ皺文多葉並鋸齒アリテ大サ「ラウテマルロ」葉ヨリ大ニメ長レ花「カラニキラナス茎ラ圓リテ白色又赤色モアリ根ハタノ鬚根相攢簇ス

**出處**

**時候**

「ラウテアンドーレント」同シテ七八月ニ花アリ

**黑裸**

此「アンドーレント」一種ラ「ヌーテルランドミテ「スワルテマルローレント」

又「ステンケニアンドーレント」呼無名瑪尼亞ニテ「スワルツアンドーレント」アント諸厄利亞ニテ「ステインキンクホレオウント」トムフナ即參ニテ

「コルリュゼンノイル」「ルリュゼンピュアント」トムフ意太里無ニテコルリュゼ  
アストロ」又「コルロゼヨバスタルド」トム伊斯巴伊亞ニテ「コルリュート  
子ドロトム厄勦奇亞ニテ「バルローテ」「ヌラ」「プラヒヨン」トムト  
リニウスノ書第二十七卷八章ニ見タリ羅甸ニテ「コルリジエニキ  
リヒヌ「バルローテ」コルリュゼアヌキリム「コルリュゼスヒリムトム  
「バスタークトルローロ」ノ義ナリ。斯局ニテハ「アラスシエムフニキミヒトム  
性効 溫ニテ燥ナリ「パウリスエキナク」曰ク酷烈ニテ滌除ノ功  
アリトモ

**主治** 此草塙ヲ加テ獨大傷ニ貼スル効アリトヨヨスコリテス甚矣  
コレ稱譽セリ。此葉熱灰中シ煅シ肛門及其他多孔所ノ息肉疣目ア  
治スヨリヨスコリテ曰ク此草葉ハ汚穢ノ瀆瘍ヲ流清ス

附言「スワルテアルロイ」

コケコロンケルデスワルテアンドードに此草トドシテナリムガ家モ哉スルトモ  
モアモア似タリ或人ニシテ往同ニテコルロヒユカソヤテスルトモフ  
コレモ亦乃茎叢生ト地ニ達フ茎ラ周リテ葉着ス常ニ葉あた並テ  
生ス因ク周圍鉗刺も浦レ次ヨドイシフートノ葉似タリ花葉モ  
ミツバヘルロテア花ニ似タリ其花初ハホイスケニスノ内ニ潜リ而ノ後昇  
毫ニロカル香「スワルテアンドード」ヨリモサレシ住ナリ此草今ニモ信ム  
コルリエニムキリスエニムリエジモシニエシトモズモ、モ相れセリ  
ゴロヒガ「スバ」モアンドードレシ花開コルリエニユムニキムラドレステ  
カドヒトモアローヤルレ税ミクルレウロコセイテストリムハレニチニユム  
ハリトムヨ此草「スワルテアンドード」モ似タリ花ハ茎ニ連り着スルトヨレイ四花  
ノトクテアリニキモモレニスハニエニスハニエニスア

コニジヨチセマルロヘコトヤルノ税テ此草羅同ニコルリエニムセレテキム  
アシギスチフレホリコトモコアドレカラチヨシニ云フ此草黑白二種ノル  
ロロニ似タリト頭毛最白自コルロニ似タリトス「カシシ」ヨリ「ヘニギ」ニ  
送ル茎綠「ゲウリ」細ク四ク少シクねアリコルケボレイシノ茎ニ少シク相似テ争カ  
ニヤコワノコルロヨリハ甚テ白メ甚テ軟ナルモマリテ茎ヲ覆ヌ葉モ亦ヤ  
狹長少シ鉗刺アリテ末尖リ「トルコセナリツサニ葉ノ大サキトシ  
コレヨリ毫ニ白花ヲ出スコルロハサルニ似タリ

**主治** 若シツスワルテマルロヒノ芭キラ以テ肛門ノ腫ラ瘡セニトスルモノハ必スコラ  
熱度中ニ於テ煨スヤレ。此葉寒キ。和レ貼スレ。汚穢ノ潰瘍ラ「ア」<sup>ス</sup>ス  
○灰けヲ以テ葉アラ煮沸ラ去リ用ヒ。頭瘡ラ「ス」<sup>スコロナト</sup>ス。コワルテアンドーレニ  
芭キマハ肛門ノ病則チ。瀉向ヒ。コリス近「イタリヤ」。セレステト云モノ  
瘡ス

**第五章** スメセイヌ一名リイケンデアンドレン  
**品類** 一 番ニ又コルロヘニ大ニ似タルモノニ二種アリ。其一ヲスメセイヌ  
一名ウエルリイケンデアンドレント云ヒ。其ニヲアセウドスメセイヌト云フ是  
ヨクシウスカ記スル處ノヘドアンドレンナルモノナリ。

**形状** 一 オ一種。スマセイヌハマルロヘニ甚似テ。其根ヨリ圓ク高  
筋節アル。莖ヲ生ス。其毎筋兩小葉對生ス。白マルロヘヨリハ高  
稍長ク白シ。其莖モ之ニ稱テ。白リメ柔毛アリ。其香ハ佳ナリ  
之花ハ小ナル。對狀ノ中ヨリ生シ。莖ノ周圍ニ附離メ。ヨリヘ  
クナレ瓦其色ハ黃ニ。其對モマルロヘヨリハ狹隘ナリ。根ハ木本  
株ニシメ保宿ス。

オニ種ハ是別。ヨクシウスカ記スル處。一種ノ艸ナリ。長太ニ  
方ニ其の茎亦毛アリ。其高サ尺二尺四ハ三尺許。葉ヨリ白色ア  
帶ビ長ク柔軟。周圍ニ缺刻アリ。葉ヲ生ス。約スミマルロヘヨリ  
粗糙エモアリ。ハ長弧ニメ大ナリ。ロ。花ハ紫色ニ。圓ナル。對狀ノ中ニ生シ。莖ノ周  
間ニ附離ス。子ハ黒リ圓シ。根ハ坚硬ニ。黃色ア帶ア

**出處** オ一種即チ真ノスマセイヌハ熟國ニ生ス。ホトコドイツ及

和蘭ニキ稀ナリ「ナヨスヨリテ云ノ説ニ山上及高地ニ生スト〇ヤニ種ハ所ノノ高地ニ生ス

時ノ序 夏月華キ其茎大ニ至テ葉ツレ花根ハ保名ノ難ク消先也ズ

名義一ヤ一種ナルモノハ真ノヌタセイスト名ルモノニテ葉厚及庸大ハ之ヲ知ラス「ドイツ」ニ之ヲヌタセイヌ一名ウエリ・ケンデアンドレンヒト云オニ種ナルモノハ其正名ナキヲシテ之ヲアセウドヌタセイスト又ハバスタークヌセイスト云ハ真ノヌタセイヌシニ非ケル力有ナリ之ヲスヤクリユズニ充ルモノアレル而異株トテ以テオアラテニハ取テ云ヒヨクリニウス」之ヲヘルドアンドレンヒト云ハ和蘭ニ異生ノアンドレヒト云フ義ナリ

性一直ノヌタセイヌハ味辛苦ガレニユス」ノ説ニオ三度ノ温ナリト

主治石タセイヌノ葉ヲ者ツテ服スハ月經ヲ利シ胞衣ヲ駆出スト

ヨヨスコリテス」ノ論ユル处ノ如レ

附言今ノ夏ニ載スル處ノカタセイヌハ真ノヌタセイヌストヨリ吻合セスト  
雖凡ヒベルシ尚此草ヲ圖ヲ載セテラハルヌセタセイスト云ラテンニ之ヲ

ナタセイヌレイギニテ一名ヌタセイヌスヘルリヤフランドリユス云又ヨユイル

ラシナヒノ「ヌハケリユ」瓦「マツニヨリヌノヌタセイヌ瓦云〇葉ハ毛アリテ大ニ  
「モイセンオールヒ名エッキニシニ似テ「マロ」ヘニハ似テ外面ニ缺刻ナシ〇花  
ハ黄ニノ愛スベガマリロヘニ似タリ小花冠状ノ甲ニ生シ葉ノ太キ毛拂ニ  
ソ白干處ニ附着ス小枝ハ低垂ノ釣ノ如リ高サ一尺許  
ホルトガニヌタセイヌ此草ローベルノ名ニヌタセイヌリユシタニカノクナリユンダシ  
ト云フ是遠行中ニメキアパリヨシノ葉ノ如リ半掌許ニノ白毛拂  
モノヲ以テ之ヲ覆ヒ之ヲ熟着スハ小毛拂ヒヨロオンケンヒテ以テ其葉ヲ  
環ル其ニ甘味アリ全草亦此リ

刺アルヌタセイヌ之ヲ須摩ノカロリユスクルニウニノナーホルヒシテマテルノ  
甲ニ託ス曰其一年立ノ植ラ種子園ニ種ニニ亘タコツヨリ云ノヌタセイスト  
ニ似タリ何者ガク纏長ニ白毛相ノモノヲ以テ實ヒ可病ノ香ナシ其ニ  
年立ノモノハ其小茎殆シト立サ六寸許ニメ許多ノ小枝ヲ分チ其端  
末ニナラハニテ軟ル刺アリ其小枝ヨリソ對生ノ芽ヲ生シ毎ニ兩葉對  
ヌタセイヌ一種ノモノヨリ小ニノ狹シ其花ハ其數多カラス長ク小枝ニ敷延ス  
ルヲテウクチヨシペアテキムヒナラ猶尚小ナリ〇根ハ木本拂ニメ堅シ  
カニヂイヒヨリ此子ヲ輪ルテガハイテルテイミト云「卫セルステイモトモ言

ベキホトノ義ナリ

ミヌセイテスハヌタセイスト形状黒ナリ何者是トイニホンテインコヨイド  
トムモノナリ吾之ヲ水草篇ニ錄セシ

ウタニスメセイス

ノ真ナリ其香ガレオアシスノ如ク其花紫或黃ニテ脉理多シ葉  
ハ「ドーステンレイクセ」即生ノミュンテラオ一種ノ如ク根ハ遠行ス

名義

ヒユクレウスカ記スル處ノ一種ハ「ラシス」或「カニヂサウード」ト云ヒ  
イタリヤニテサルヒヤサルハチカト云ヒユクレウス之ヲスナニケンデオーデルレイテ

アンダレヒト云「卫ラギュス」之ヲマリリユヒエニアグレネ近即畢年アンドレンシ  
名ラキス

主治 ヒユクレウス曰二種瓦ニオ一種アンドレンニ功ニ似タリト此  
煎汁甚小便ヲ利シ其煎湯ノ烟ヲ以テ下ヨリ用テ小便ヲ利シ月  
経ヲ利ス

主婦ノ子婦ハ宜シ此ノ用ルヲ禁スヘシ之ヲ叩ニ用サバ胞衣ヲ  
下ニ敷クニノ損害ヲ生ス

第六章

メリスセ一名コンヒリイデゲレイン 治田ノ況

形ノ状 メリスセハ耳ノ茎高ニシテ高リ廣クノ紋文アリザク粗慥瓦葉  
アリテサクバルロテ一名スワルテマルロヘニ似タヒ天ヨリ濁毛アリテ高  
消高リ香モ佳ナリ何者其葉ハ甚粗ナラス且サク鋤長ニテ音ハシトル  
ウソアツペルニ似タリ茎周圍ニ小ル葉多柄ノモノアリテ其ハヨリ合心  
ヲ出シ其子ハ小ニメ黑色ヲ帶ヒ根ハ齧多シ

出處 メリスセハタク園中ニ植ヘ或ハ之ヲ山林及至地ニ見ル之ヲエニ子  
ナラーツトキアリ是ヲクハエニ子ゲドアゲアラツトカ又香毎三重シ其之ヲ植ルノ法殊第ノ多クアル處ニ宜シ何者昨好テ此  
エニ子ラテアラツトキアリ入リ既故屬ヲ忘ルニ至ルトカリニユニカカオセ一卷ナニ華  
意不解且文ノ記ス處ノ如ク是以ニテ第邊ニ植テ又其聲ヨリ故居ヲ忌ムス  
支離ス

之ニ帰未セシムヘントヒルガリスカムレオルキラ又ラントホウウンジノ  
オ四巻ニ記ク處ノ如ク

時序 六七月ニ華キ初生ニ至テ葉悉零チ根ハ保宿シ天ヨリノ孟

名義 此草諸邦方ニメリスサト云ギリシヤニメリリペーイロシ一名メリテヤ

春新葉及莖ヲ萌出ス

ト云アリニス之ヲメリワナシト云。何者ギリシヤニテ暁ヲメリトラ或メリスセ  
ロユミ或ニヨシテソヤスリコトト云。ト云アヒヤストリユムト云アヒヤスセト云カ故ナリ。萬局  
キカ考リ。塙ノ事アリ。

ミテメリスセアリト云アランビニテメリスセト云ホーゴドヒメリスセシフラウトト云  
初蘭ニメリスセ一名コンヒリイデゲレイント云ガングルス。ハウメト云

アリニスノ考ニメリソペイルロントアヒヤストロント少クロビトツク別アリ曰アリソ  
ペイルロシハ暁草ノ邊ニ植エト其ツムセ一卷オナニ章ニ載セ又セ卷オナ  
一章ニ之ヲ證ノ白ヘイギニス人名ハアヒヤストリユムニメリソペイルロシノ名  
ラ余スレ瓦是サルチニ地名ニテハ姦艸トスト是アリニスカ誤ナリ  
官ニ此ニニ株ノ因アルフミオラス尚其形状モ似タルカ考ナリ。何者  
吾ノ唱ル處ノメリスセ一名ナリソペイルロシモアヒヤストリユムト云フ。其  
アヒヤストリユムナルモノハハーバーフート又ボウテルブルーメンシノ一種ニテサルチ  
ニニ主ナ甚毒アリ之ヲアヒヤストレユムト称メ吾唱ル處ノメリスセヘル名  
アヒヤスチユムトハ大ニ別ナリ

アヒセレナ日其功オニ度温及煖ナリトアレニス日少クアド  
シシタヌマルロヒノ切似タレニ具切劣レルト遠シ

初醫生ハアヒヤ及モルノ物品ヲ以テ心藏ノ諸患ヲ治スル良品

### トナス

主治アヒセンナカニ藏主治ナ中ニ曰此草心ヲ悅ハシメ精神  
ヲ強化ニスト。セラビオノ名尚諸多ノ訖アリ。口胃ノ水氣及  
寒液アルニ大功アリ且食ノ消化ヲ助ケ。頭腦ノ闇塞ヲ開キ心ニ元  
懼アルヲ驅除ス。デヨスコリテス。曰此葉ヲ酒ヲ以テ作ヒ或外  
傳メハラシギイン又スピニ子ヒ及スヨヒエヒ及御大嘔傷ヲ治スルニ甚  
直ナリト。又曰此葉ノ煎汁ヲテ漱ヒ。齒痛ヲ治セルニ大切アリト  
。又右ノ煎汁ヲ水鏡剤トナレメ赤痢ヲ治セニ用エ。此葉ニ焰  
硝ヲ加ヘ服メカム。ルヌーリイン。妻ニ申テ咽喉塞ルモテ次ス。呼吸  
短促ノ語言ニアメワズ或ハ頭項吸直モモ此葉ノ液汁ヲ日  
一滴ヲ用ヒハ甚驗アリ。此葉ニ鹽ヲ加ヘ貼ノコノツブズウールヲ  
和葉シ諸瘡瘍ヲ釀熟シ又四支疼痛又痛風ヲ治ス

殊用アリスセラ暁草ニ傷創シ或ハ此液汁ヲ其暁草注ヒ  
許多蜂乃チ集ニ是以前ニち如ク暁草耳。故居ヲ忘レガラント欲  
セハ其暁草ノ周囲ニメリスセラ種植スヤキナリ

附言メリスセハ其葉ノ廣ト粗慥也ト又其花トニ少別アリ其生植スル處ニ後テ或白ク或淡黃或戶色ナリ〇此艸園中ヨリモ好テ森林ニ生スレバシラ園中ミ植シト放セハヨク滋潤メ日暉ノ微ナレ处ニ植ヘシロ又メリスセニ形似セル一草若徒ノ所謂ワンツエンカラウトナモノアリ之ヲホトコドイツシム「ミニシテカラウトトム其真ノメリスセヨリハド一子ノテレシニ似ルオ甚キナシテ吾徒ハ之ヲ子ノテレシニ算シトスヒクレサスノメリスセハメリスセヨリ「ド一ヘ子ノテレシニ能似タリアグリツバ入名ハニラヘルバサカラトホリ鴻禡色ニ真ノメリスセニ似タリ長クメヨミエニ近ノ如シ方莖ニシテ高リ一尺許先ハ赤色ヲ帶テ淡赤ナリ纖長シノ美ナル「黃花ノ向トヘ子ノテレシニ似タリホトコドイツ及ラシギラトヒニ有胚ニ生ス

トルコメリスセ「ローベル曰「ラテンニシラ「メリリペイロソニルキリム。フロピュルヒユルカリユロコアウトアルビトム其香ハメリスセ或ヒトルウンニ基似タリ其刺甚ノ旨アレラ以テ人ヲ嘔セシム意者此其強烈ノ香ヒタルカヒト相渴スルカ若半此物又カラブリインシノメリスセシノ中ニ生ス凡テトルコメリスセハ園中ニミ植ユ根ハ甚大ナラスサ生ハ方ニテセサリ許

或其ヨリナキアリシ葉ハ「カメデレイス」一名スコルデエムノ如ク缺刻アリテ尖リ下ヨリ上ニ至ルマテ驚衍附離ノ許多ノ細腸枝ヲ開キ其周圍ニ刺根ノ葉蒼セハ諱アリテ連鑽聚簇スル「刺麻」如シ茲ヨリ紫藍色ノ花ヲ出シ又大白ナル「ガマンデリカ」似タモノアリ子ハ黒ク纖毛ニフルウイコロイド一名ハシリコニ似タリ上ニ小白ナリ此は是国人ノ有スセモ外ニカニ若ルモノナレヘシ何者是モルバヒンノ野生ノ吾國ニ将来スルモノナリ〇

多文野生メリセノ一種アリ「ドウラニド」ヘルウケテレシト云是尚ガルチアカト黒ニシガレオブシスニ充ツルナ

主政此草諸病通用ルテ野生アンドレシニ雇行ス之「諸刺」用テ其功稍劣レリト鉢及アンドレシノ脚立スルハ乃シテ絃スヘシ加レニズ或人訛ニ後ヒ之ヲ補テ云尚其本照ノ如アリテアンドレシアメ隣奈ニセシムヘシ堂其ノミナランヤ又他ノ諸病モ之ヲ希望スト〇メニセ計然新癒ラズスルノミナラヌ又ヨク曰瘡ラズスル「甚速ナリ〇アリニズカムニ一巻オル章ニ日此草蹠刺傷痛ヲ即時ニ和レ且癒ラ愈エスト〇此草ノ薦計ニテ創瘡ヲ溫セバ即治ス〇此草葉腹痛ヲ治ス

○イリスセノ液汁、蜜ヲ初レ服ノ暗昏、大切アリ。又心窓ヲ枕ハヌ  
ヨク黒臘及冥、液ヲ詣ス。才知ヲ歛ニシエラ寝前ニ服ス。ハ佳夢  
アラシム

アルシニスキユイ卫キスタラグトハナリスセ 其法メリスセラ小石ニ切り硝子  
入レ之ニ上好醜酒ニ指す。注キ其上ニ蓋レ熱湯ヲ以テ露滴シ或ハ  
大陽ニ晒シ或露滴龜ニテ滴ス。ナニ須臾而既之ヲ取り出レ操合シ汚物  
ナリ右ノ焼酒ニ又新草ヲ入レ露滴至丁又前如クシ又取此モテ操ミ又  
新草ヲ入レ、三四回殊換ナハ功アリ。究竟其焼酒ヲ熱湯ヲ以テ  
滴シ其焼酒精ノ濃固ノ蜜ノ如クエニ止ラ取出セハ其残餘ノ水杯ノモノ  
ハ硝子中ニ止ルナリ。○此卫キタラグチ一ハ心及頭腦ヲ強ナシ胃  
消化ヲ助ケ心ヲ悦ハシム。○之ヲ毎ニ一匙或三トニ三厘玉丸或如此液  
汁風コルデアル。水ヲ以テ服スヘシ。○此又疫ノ治ス。大功アリ  
且此功用甚多。人モシニテ毒アル食料ヲ喫セシカト疑フキハ宜ク此  
草ヲ用ユヘリ。殆テ損害スルナシ。○蜂ハ大ニエースセラ好テ而ノ甚  
アーテレヒラ思。山野者若シ蜂ヲ集ニト被セハメリス也。ノ花フルテ具萬ニ  
拂シ又蜂ヲ駆シ放セハマテレシ。花ヲテ拂シハ乃散ス。○此物タラク用ハ  
ス。

心脾ノ打撲傷、大切アリ。○此メリセスニ重桶ニ露滴シタル水ハ前  
作ノ諸症ヲ修正スルニ切アリ。宜ク其露滴石前ニ当テ一夜酒中ニ漬ス。シ  
○之ヲ以テ漱ケハ咽喉ノ諸病ヲ治ス。○此萬ヲカミヒ花ト瓦ニ煮小壼  
子ヲ作テ外傳ノ子宮ノ痛及白強ヲ治レ月經ヲ促ス。其小壼子又四支  
疼ヲ治ス。○而此草ヲ以テ酒ヲ造ヒ諸病良ドリ

■家用

此艸ノ露滴水ヲ通宣ニ入テ凝酒ヲ摺動ス。六具ヲソ清潔  
ナラシ且味ヲノ准ナラシム。○此草ヲ以テ肉ニ屎布モト覆ラ廻ケ且  
腐敗ヲ拒リ

ラニキク

第十七章 モリユツカ又異種ノメリスセノ二種

品類 モリユツカ一名フレイムデメリスセニ二種アリ其一ハ葉ニ刺ナ  
二種葉ニ刺ナ  
六粗鷹ニ刺ナ  
四鷹ノ葉アリテ花其中ニ開ク其花ハ下へ子にてしこ似タリ死稍

少ナリ  
オニ種ノモノハ叶許多ノ茎アリニ其うちサ大率一尺半许ナリ  
葉ハキ一種、如レ花モシオ一種ノセリ四鷹ノ葉中ニアレモ其葉長

クソ具周囲堅ク光リテ刺アリ

出處 二種共ニ新蘭ニ之ヲ見ズ此モリクス島ニ生スルモノニシ近時

ニラ東印度、得タリ故ニ此名ヲ得タリ

時侯 七八月中ニ華ナ

名義 ラテンニ之ヲモリユツカト名ルモノハ右ノ島ヨリ出ルカ考ナリ

オニ種無刺ノモリユツカハ「オツチヨリユス」カ圖ニ依テニラ者ルニメリツペイ

ルロンコニスランテノキリタニコト云即コニスナリハペイレンノメリスセノ義ナリ

吾徒ラジニ之ヲモリユツカラウイスト云

オニ種有刺ノモリユツカ「ラテンニモリユツカスビノサ」ト云

理 功主功ニオ一種ノモノハ吾未タ本州象ノ其功ヲ論スルヲ觀ズ或

口ヨク毒ヲ解スト

附言 「主功」オ一種ノコンスタンチノラーリ「メリスセ」ハ開庭稀薄ス  
ル功アリテ深倫及腰温功ヨリ魚ナリ此草ヨク成寒ニ開キ粗鷹ノ

液ヲ薄クスヒニラ膏ノ丸リ傳貼ノヘス干ヘキリヒ及寒瘡潰瘍

ノ治ス。此草ノ根頭ノ癰ニ名譽アリ

オニ種有刺ノモノハ其功強ニトオ一種ノセリニ心及子宮ノ諸患ニ  
効甚ニ功アリ

ヨイキク

キヤウナ

一 種

六粗鷹ニ刺ナ  
四鷹ノ葉アリテ花其中ニ開ク其花ハ下へ子にてしこ似タリ死稍

少ナリ  
オニ種ノモノハ叶許多ノ茎アリニ其うちサ大率一尺半许ナリ  
葉ハキ一種、如レ花モシオ一種ノセリ四鷹ノ葉中ニアレモ其葉長

クソ具周囲堅ク光リテ刺アリ

出處 二種共ニ新蘭ニ之ヲ見ズ此モリクス島ニ生スルモノニシ近時

ニラ東印度、得タリ故ニ此名ヲ得タリ

時侯 七八月中ニ華ナ

名義 ラテンニ之ヲモリユツカト名ルモノハ右ノ島ヨリ出ルカ考ナリ

オニ種無刺ノモリユツカハ「オツチヨリユス」カ圖ニ依テニラ者ルニメリツペイ

ルロンコニスランテノキリタニコト云即コニスナリハペイレンノメリスセノ義ナリ

吾徒ラジニ之ヲモリユツカラウイスト云

オニ種有刺ノモリユツカ「ラテンニモリユツカスビノサ」ト云

理 功主功ニオ一種ノモノハ吾未タ本州象ノ其功ヲ論スルヲ觀ズ或

口ヨク毒ヲ解スト

附言 「主功」オ一種ノコンスタンチノラーリ「メリスセ」ハ開庭稀薄ス  
ル功アリテ深倫及腰温功ヨリ魚ナリ此草ヨク成寒ニ開キ粗鷹ノ

液ヲ薄クスヒニラ膏ノ丸リ傳貼ノヘス干ヘキリヒ及寒瘡潰瘍

ノ治ス。此草ノ根頭ノ癰ニ名譽アリ

オニ種有刺ノモノハ其功強ニトオ一種ノセリニ心及子宮ノ諸患ニ  
効甚ニ功アリ

オニコロイド 千早 ギリットコロイド一名ヘルバユダイカ

卫キ子 チヤフ

第八章

「ギリットコロイド一名ヘルバユダイカ」

品類

前ニムメリスセノ種類ノギリットコロイドニ大ニ似タルモノニ種

アリ

形状  
タガキ  
元ツ  
未穂

ギリットコロイドノオ一種ノモノハ甚直立セス而甚低凹セ  
其茎ハザク傾キ簾角結節アリ此ヨリ許多ノ葉ヲ出シ  
兩葉對生レ周圍ニ缺刻アリ胞レニ甚僅サナリ且サク縮  
ムマルロヘヨリハ長クメ狹レ其茎ノ梢エテハ其葉甚タ  
タカラス粗慥ニメ刺棘甚サレ茲ヨリメ淡青或ハ赤ヲ帶  
ヒ或ハ白キ花ヲ生レ聚錯ス黃花ハ甚稀ナリ根ハ鬚多シ  
全艸綠色ニメ白色ヲ帶ニ其香佳ニメ佐ントメリスセノ香  
イ如シ

ナル

又二種ノモノモ亦簾角結節アリ其枝或ハタク脇枝ヲ分ナク或

枝ナキモアリ其葉ハ闊リ長ク其先尖リ毎節ニ花ヲ出スレバ  
嘴生セヌ偏倚ス色ハ青クナド一子一テレンシノ粧ノ状ニ似メレバ小  
ナリ其香ハ墨オ一種ノモノニ似タリ色綠ニ白色ヲ帶ヒ其茎  
或ハ赤ク葉ニ亦半面赤シ

**出雲**オ一種ノモノハ「ロハ」テイシノ海岸アヘリイン山ノ邊又カラニス  
ノヨリヤウドレノ「ランドオウエニ」生ス又曰「國ノ」イゲンスビエル  
生レシタミウ「ヨリ」遠カラサル曠野ニ生シ又諸邦之ヲ生スリ或人云  
燥土又砂地ニ生スト「チヨスコリ」アス曰石多キ地ニ之アリト  
オニ種モノハ和蘭又處し渥地ノ島ニ生ス其色白シ燥土ニ生ス  
モノハ赤シ

**時侯**オ一種モノハ甲夏ヨリ秋ニ至テ子ヲ結ヒオニ種ノモノハ六  
月及八月ニ華リ

**右義**オ一種モノハ今「う」ニヘルバエタカト云「フランコ」名ヲ以テ  
コテトラヒ止一名テトラヒ止トキ「ホトゴヤイツ」ニギリットカラリ止和蘭ニキリ  
ツトコロイドト云諸本州家ノ考ニシテかえラ「チヨスコリデス」ノオニ種  
ノ「チデリテスト」云黒名ヲヘラクレア一名ヘラキユラナト云何レノカニモ  
其筋合ス何則其葉「ローヘヨリ」長ク亦ヨリ「エイヒ」二種「ロイ  
ペシ」アカメ「デレイ」ヒニ甚似テ粗慥ニメ纏長ナル「アーヒー」ニ大ニ  
似テ其周圍缺刻サレ〇又「チデリテスト」三種中ノオニ種ヲチヨス  
コリテスニヤリシセ語ヲ以テ記メ曰「チデリキス」之ヲ或ハヘラカレアト云  
其葉「ローヘ」ニ似メレバ稍長ク「エイヒ」葉或ハ「アーヒー」葉ト大率  
同シケレバ尚少ニ粗慥ナリ其茎「立」アガマスノ子ノ高カリ或ハ此ヨリ  
高キ「モアリ」味佳ナサルニアラス茲ニサク收斂ヲ帶ヒ其茎中ニ少  
ク空疏アリ花環リテ聚錫スナリ「アーモード」如ク子ヲ其内ニ結フ

其色黒レ

**名原** オ一種ラフラニイニヘルタリセト云和蘭ニエイセルコロイドト云キリシ  
ンテロストムラ加蘭ニ之ヲエイセヒト翻ス是レ鏡ニテ損傷セル新癆ラ  
治スカホナリ

オニ種モノハオ一種シテリテス一名ヘルハエイドノ種類ニテ耳、香甚齋ク  
其茎及葉モ向相違ハサルガ齊ニ之ヲオニ種ノキリットコロイドト云  
又或人之ヲレイレマシアガレリカラメレ一名ゲヘルムテウエイテツキト名タリト  
雖瓦当イテリキ此種類ニハ算入セガルナリ何者ウエイテリキノアニテ種  
類ト其形全ク似バ其上墨種ノウエイテリギトモ全ク似サハ其真ウエイデ  
リキトハ達キト基レ

性強ク乾カヌ功アリ又サノ漏傷無收ノ功ア萬ヌ

**主治** 銀器ニテ損傷レ出血スル新創ラ治スルニ劇基ノ功アリ〇或

云脛裂ラ治スルヲ基連ナリトヒ又妇人ノ白帯下ラ止ム〇アリ  
ミス曰之ヲ新創ニ巻クキハ血ヲ留メ全愈ストナヨスコリテソ曰此  
サノ葉ヲ疵ニ貼エレハサ詎ノ腰潰及歎熱ノ患ナカラレメ蟲スト  
**附言** 古ヨリ撰サノ象種モノサラ以テシテリテソノ名ヲ被ラシムル  
モノ甚多シ加之凡ク四支ノ鍼署ヲ以テ損傷スルヲ治スレ班アル諸サ  
ラハ則概メ之ヲシテリキスト云荔枝ニニノ異名ヲ加ヘ或ハ之ヲヘルケレ  
ト云或ハキルヤ或自歸ノ異称アリ其鱗兒ニ涉ルカ考ニ今吾  
簡詞ヲ以テ一ニノ種類ラ奉テ之ヲ諭セントス〇ド、キウスハ真ノ  
コトヲテト一名ヘルハユダイカラ以テ真ノギリットコロイト、充ツ碩學ノカロ  
リユスケレウニ其異草譜四卷オエ五章シテリテスカリスタパンノ  
ニカレト名ク其圖ユル处ノシテリテスカリスタパンノ  
マアズト雖瓦斯カニ著ス處ノ如キハヨ子ウニ其晩年、イメリテ

自筆ヲ以テサク改正スル処ナク其改正増補ハ吾徒之ヲ譲文  
中ニ次續ス〇或オ一種ノ印テリテスフワーテルマロヘ、充ツ  
舊此ハ則門子ウシハ学ヲ水草ノ部ニトカシ〇

今吾斯ニ山字ウス又其餘人ノオ一種印テリチニ昂キヨスコリテ  
ノ印アリテスヘラリレアニ充モノ、ミヲ訖カシ  
オ一種ノモノハローベル曰花ハ刀テイガラヘシ一名ヌタルコロイト、似テ葉  
ハオレイフ樹或ヘイルコンテレイゴンシニ似メリ其茎至高サ一尺半許  
オニ種ハモントペリリイルズ入名ノ訖スル處ニ一種印テリチニメ其花  
黄ナリ之ヲテビニコレテリチスペリリアカスコレライデスフロリビユスリコトシ  
ト云。

オ三種ハベルグレーテリテス、ローベル曰アテンニ之ヲ印テリテスモンメナト云  
キヨスコリテスノオ一種印テリテスニサク似テ秋葉ニメ甚メカナシ  
異種ノギリットコロイドノタルキウスハ前ノギリットコロイドニ種アリト其云  
オ四卷ア五章ニ之ヲ訖ス是吾徒ノ祐スル處ノギリットコロイドナキ  
コレテスノ印テリテスヘタクレスノ種類ト見エ今昔簡詞ナヒテ之ヲ論  
セム其數七アリ

オ一種ナルモノハ其茎方ニモアリ筋節アリテ高サ一尺半許其筋節  
ヨリメ兩葉生レ兩側相對シ粗慥シテ數丈アリテオニ種ノモノヨリ  
大ニメ缺刻アリテ其香重ノ其味辛味シテアリ其小筋節ヨリ又他枝  
ヲ生レ少葉附離ス其花ハ茎ノ稍上ニ環生ト外側ノ<sup>ロザン</sup>穗ノ如シ  
ガラ曾ニ似タサク白ク芳香アリテ其中央開喉セルロアリテ血赤ノ繻  
穢ノモノ展布ス其子ハ五稜ノ葉ナシ、落ヒ積アリテ黒シ根ハ硬ク

シテ本ノ如ク許多ノ莖ヲ生ス此種所在之アリトシ子ウヨノ記述處ニカク似タリ

オニ種ハちリ尺許ニ至ルフ稀ナリサ許ノ及アリ葉ハオ一種ノモニ似タレ花軸ナリ花ハ白クメ他種ヨリ大ニ白居アリテ耳軸長ノ穗アルトオ一種ノ如クナラスト雖瓦其無裂穂ヲアラハスアユル子ルレシカオステシケキニテハ八月華ノ

オ三種ノモノハ其葉マルロ一ヘヨリ長ク芳香アリテ鑑オ一種ノモノ、如シイヌハニヤセニ生スコニヨスコリデスカ記スル處ト悉ク箭合ス

オ四種モノハサクオ一種ノモノニ似タレ梢小ナリ其差ハ地也ニ遠ヘ中身ヨリ稍上ニ至テサク鉤屈ス

オ五種「レモノハ體身直立ソ許多ノ方枝ヲ而腸ニ發スモノアルト又他種ノ如ク葉サク缺刻アリ花ハ他種ノ如クナレ瓦白シホンガリヤシ

又卷鉤

及和蘭ノ專ニ生ス  
オ六種「ルモノハ「ド」子ウニラ真ナリットコロイドニ充タリ惜モ其形状齊シクルニウス記スル處ハ乃曰方莖ニシ高サ、一尺許ニ過ズ其莖直ニ根ヨリ生メ許多ノ枝ヲ生ス葉モ根ヨリ生スニテオ一種ノモノ、如シ又脉理神経アリ堅ニ瓦軸ニゲルテルト卷曲スルアリ茎或ハ腸枝ヲ環テ生シ而メ這レ花モ茎或腸枝環リ五截シタル處ノ萬中甲ニアリ其莖中ヨリ挺出スルノ根薩瓦ニテ他種花ヨリ其小ナリ其形狀ハ他種ノ如ク色ハ灰白ニテ裏面ハ白シ其子ハ他種ヨリ少シ黒ラ葉根ハ白クノ堅ニ堅ニ瓦キニ至テ消スルトオニ種又オ四種モノ、如シ其莖或ハ枝ノ正面ヨミシハ白齒ナリ全艸毛裸ノモノハ皮テ覆葉フ是シカリヤシ其邊ニ生スル以テ之ヲシテリテスセクスダハシニカナム月及八月華ノ

オセ種ナムモノハ許多ノ生キラ根ヨリシテ高サ一尺許方ニ不妙  
ヲ直立ス其後莖ヨリ而シ葉出シ相對合スルトヨ尋常ヘイソ  
ツゴシノ如クナレ瓦暗緑色ナリ花ハオ五種ノモハ如クナレ小ニシテ  
アヘンデヒ樹ト甚違ハズ白クナサ茎ノ梢上ニ團着シ耳ソ中ニ廣ク短キ  
鉤曲スニ葉アリ上面ハ黄ニシテ後赤ナリ根ハ長クノ硬木ク如ニテ  
其色白黃ニメ數年保有シ甚ヨリ矣而涼ニ堪ニ八月革ノ  
**名義** 真六ノヤリットコロイドハコロヘヒ旨アラシ込ニカルヘンヌリヤセ  
一名コムカルリイデコロイドト云是村或ハ鍛墨ニテ破傷スルニ用  
ルカガナリ或ハ之ヲヘリユムイナトリクスヘラクレアト云之ヲヘリバニ交  
イカレト名ルハ田園人或商賈人固ヨリ此物ノ大功アルヲ知ルカ考  
ナリ多クヨーテン及モル國ニテ此草ヲ以テ革シ或内服ノ勝  
利製ヨシシ又妇人ノ白帯下ヲ治スナガリヤニテナルトスシユト云貴  
44

ノ義ナリ又之ヲヘウエスペールカラウトト云是ノケルシウスノ體ス處ノ  
異種ニメ吾知ニテ之ヲテタヒト凡ヘウエスペールカラウト凡云フ  
中ニ就キ六種ノモノ也リトス其七種ノモノシテリテスアルヒテ一名モシ  
タナト云コヘルガ山シテリチ正ノ義ナリ

**主治** ハルシウス曰オ二種及オ五種ハノキニルマルヒトゾ妇人之ヲ乾  
ヒテ頭痛ヲ拒ク其知言ニシラヘウエスペールト云何者此艸煎  
汁ヲ以テ頭痛ヲ洗ヒ又其水ヲ以テ面足之及其餘部ヲ洗テ耳  
被倦ヲ配リ且四支硬強スルヲ速ニ治スニ用エ〇ハルシウス曰  
予無一人ノ此艸煎タルニ及其ノ葉ヲ搗テ水煎シ其脚ヲ洗  
ヘ或曾ニ此葉煎ヲ以テ脚ヲ洗セハ脚病ヲ除スルト甚速也  
和蘭ニシテコヘルセト云コヘルゴドナソニシラコツヒ  
脚ニ末ルヲ洗スルト甚ナリ

第九章 ヘリテデスパン一名オルナヤカ 芬蔚

芬蔚

**形狀** 茎方シソ太ク里クソ高サニ三尺許色ハ暗色或深褐色又ハ黒赤色ナリ葉ハ濃綠色ニモアーテレシノ如シマルローハノ葉ヨリハ甚大ナリ而ノ截斷深ク茎ノ環ツニ堅刺アル莢ノ蔓有物アリテ茲ヨリ白紫色ノ花ヲ出ヌにてドーヘ子一テレシノ如シ既ヒ小ナリ子ハ黒シ根ノ代リニ許多ノ鬚アリテ其若葉及ホーフドハ地中ニ況底ス全物ハ香甚重ク味ヲ苦シ

出處

此草多生于地或碎石アル處或古壁ノ分崩アル處ニ生ス

時序

六月ヨリ季初ニキテ強固ナリ因テ其子熟ス莖ハ先

枯レ根ハ保持ス

名義

今キリシセ及ウテシニシラカルダヤカト云和蘭ニヘルシケス。シ

トニ

ゴドイツヘリゲス。アルト又ヘルツゲス。パント云フランスニアグリ

ハウルメエシテルスミテモルテルウラニト云ヘイムズルニキ子ノアム  
或之ヲコレヒリイデゲレイン。一種ニ毛ツノ冝クシテリテスヘルキユラナ  
ニ算入スヘシ何者ニ葉マルロヘヨリ大ニテサク。エイケン葉ニ似テ  
尋常ニ立イシノ葉ヨリハ其截斷稍多シ但レ大率ハヒト葉  
ニ似タリ花ハ茎ニ環集シ子ハ黒ツレ既ヒ毎時古ノ本ツヤ多キアラ  
ミルニ大抵同種ナリ

性

温燥ニオニ度ニ清淨除湿ノ切アリサク壯歛ラ且ヌ

主治

此物心藏ノ諸病ニ用テ大切アリ以テギリシセニカルダヤカ  
ドイツヘリゲス。ト云ノ名ヲ得タリ。或人云關節ノ損傷ヲ  
治シ又痘瘡ニ大功アリ又薄病ヲ治ス。此物内蔵ノ閉塞ヲ開  
達シ又腹中ノ蟲ヲ殺ス。此木ヲ酒ニテ服セハ翅利尿通經  
ノミナラス。亦難產ヲ助テシ。晚房カラン。又新創ヲ治スルニ

する者あり。又牛ソニニノ病ニ用ニ。是シ農天甚之ヲ貴フ。

**附言** 此草自聖ニ好テ。膏腴ノ地ヨリ生ス。或ハ之ヲ前ニ云處向一リシノモリユツカノ種類トス。

**主治** 此草ノ葉ヲホトトニテ以テ煮或ハ並焼ス。ハ子宮ノ疾ニ効甚ノ功アリ。人モニ此草ヲ殺蟲ニ用シ。其内脈ヲ取ハ。此葉ヲアルセシ油或ハ苦巴且舌油ニ入テ。肺上ニ傳貼スヘシ。此草ハトナレ毎夜乙ラ服ス。ハ喘急高良ナリ。又之ヲ一時ノ長サ服ス。ハ其呼吸ラノ後未ラガラシム。此草吳ヨリ未ニ心ノ諸病良ナリ。又此草ヲ搗キ新創ニ貼ス。其燃熱ヲ犯テ其出血ヲ止メ。其癰ラ消ス。○又此草心痛及心ノ衰弱。甚良ナリ。又疝瘕ヲトキ或吐出シ又肺ノ粘液水淋ノ未熟ノ液ヲ融解ス。○妇人臨產ニ当テ此草ノ乾末乙ラ服ス。ハ催生ニ下切アシトス。○又妊娠ニ寒熱ヲ治シ。

乳蕩ノ既ニ乳器トナシトス。始ニ當ヨテ服スハ不切アリ

**殊用** アーレリユ込曰。此草峰ヲ集ラシム。峰ノ此草ヲ好クメリ。益如シ見ラシテ前ニ云フ處ノ如ク。此草ヲアリスセノ一種ニ充ルモ霄壤ノ差等アラガルナリ。

第十九章 メンテーク名ニユンテ

**品類** ニユンニ数種アリ多分園中ニ種植ス其自野生モノ  
野生ノニユンテト云

薄荷

形状

オ一種ノモノヲブリュインヘイルドト云方茎ニ深褐色或暗赤色ニモアリ葉ヨリ圓葉ヲ生ス周囲ニ缺刻アリテ其色暗緑ナリ花ハホクメ茎ノ環リニ生スルホレヒニ似タリ根ハ斜ニモ横ニ地中ニ道布シ細根アリノ彼是ニ新サキヲ生ス全草芳香アリニ其ツ地ニ獨特ハルハ直立スルモノヨリタリ

オ二種ノモノヲコロイヌニユンテト云且フ茎サク毛アリテ葉圓ノ黒色ラ昂ビ根ハ道布シ且サカ音アルト基タオニ二種ノモノニ似タリ花ハ羽ナナシテ茎ノ周囲ニアリナリ音ニ衝上メ茎ノ稍ニアリテ小木セル穂或ハニユイスペルゲンスレハシ

オ三種バルセムニユンテハ葉鐵長ニホウイレシ葉ニ似テ大ヨリ稍白ノ歎ニモアリ花ハ茎ニ最エニアリテ心穗ノ如クラオニ種ノモノ、如シ根亦オ一種ニ候テ穂及新芽アリ

オ四種ヘルコロイドハ又長ニモ茎葉凡ニオニ種ノモノニ基似メレル稍小ニ其花ハ茎ト周圍ニ聚籍、茎ニ最エニ穗状ヲオズ也レ其莖ノ周圍ニ聚簇スルオ一種如ク耳色ハブレイナペルモ或ハ紫ナリ

八ヤ五種野生ニユンニ一ナリ總テ之ヲ白ニユンテ名ノ是繁衍盛  
大ニメ長ク方茎ニモアリテ白色ヲ帶ビ葉白ノ葉頭ヨリシ葉尾ニ至ルマテ本もアリテ且、兩面ヲ覆フ花ハ穗ノ如クニ茎ノ稍ニ生シ根ハ長クノ廣ク而脇ニ迄蔓不見其數多ノ嫩芽ヲ以テ茎ニ  
繁殖スルナリ

ア又爰ニ野生ミニテノ一種アリ是細葉ノミナルノモナラス耳篠郡  
ホ無リ耳葉片面ハ綠ニト背面ハ白シト雪白ナリ

出處

多分園中ニ植ル中ニモアリユインヘイルゲオ一種ヲ最トス尚更ハ

森木ニ見シ湿地及水流ノ地ニアリ豈天ノミナラシヤホ沼池及静

涅ミ生

時序諸種凡ニ夏華キ冬ニ至ヒ根ハ備宿ス是一冬ニ植ヘバ  
長ク宿根ノ瓶ク消セズ

名義

ミニシテ一名メンテハギリシヤニ之ヲ「テオヌモ」ト云一名ミンテ  
アリユエ書オナ九巻オル章ニ曰此名ハ香ノ佳ナルト云ヨリ。蓋シ  
タリナリ何者ハテイオスラ月又集ト翻シオスモスラ香ト譯キア  
因テ引テシニメレタト云莫局及イメリセフランスニテコラソニ語ニ  
テメシタ或メシテト云アリス。ハニヤシニテハ「モールハビュエ」或オルテラナト云

ホーコドイツ「ミニシテ」和蘭ニ「ユニテ」エンドルス「ミニシテ」ペームズ、  
「マヒトム

「ハイメート」

オ一種ハホーコドイツ「カウカウ」も小ラウルニ申シラウルハナサ

トム和蘭ニ「ブリュイ」ヘイリヒトム

オニ種ハホーコドイツ「ラウツメン」トラウツミニシテラウツバルサヒトムヒ  
和蘭ニ「コロイス」テミニシテト云或ハコロイスミニシテト云「ラテ」シ「カシ  
タコリユニア」と「フラン」ニ「ラウメケレス」ヒユト云「ベーム」ニ「回ルス」シト云  
オニ種ハ和蘭ニ「スマルシミニシテト云或ハラテン」ニ「シタカリラレニカ」シタ  
ロマコシタマアギギユスリホリヤ「カリユヤコマナ」又ヘルバサンクタマリセト云フ  
ホーコドイツ「バルサムミニシテ」ブンセルフラウウンミニシテスヒトセルミニシテ  
ノヒトセルバルサヒトム

オ四種ラヘニテコロイド一名ヘルミニシテト云ホーコドイツ「ヘツカラ」

ウトト云ラテシ、カニナヤカト云

オ五種ソナヨスコリテ云之ラヘテイオスモスアグニオスト云畢生  
ミユンテノ義ナリラテニ諸ニテ「メレタセイリューステリス或メタヌストリム  
ト云フトアリユヒ云ヘリ「イタリヤカシタサルハナカ」卫シケル迄ニ  
カルカシシ止ベームス、ナラナマタニ萬局ミカシタ一名ウツテミユンテト  
云ホードトイツヒウイルテミユンテ」イスパキシメンタスチオト云是宜  
クワクワテミユンテト云ベキナリ

B、畢生ミユンテノ一種ハ宜ク畢生ノ小アルミユンテト云ベシ

性温燥キニ度ニガレニヨカ云處ノナリガク苦辛ニメカラミシ  
ヨリ弱レ

王治アリニスノ訖ニ此草ノ香諸神ヲ快癒え其味食ラ消下  
0中ニ就キ胃、大功アリ。ニテ酸キカラナートアッペルノ汁ヲ加シ服スハ

呪送ラ止メ勝計稀ヲ吐ス。ラ止メ忠心ヲ拒ノ且是ヤ吐泻ラ歎ス。ガレ  
ニス曰醋水相和セル物ラ以テ服スハ吐血ラ止ムトアリニス」日汁トナレ  
ス、ルベシト。此草妇人下血ノ過度ラ止メ且其白帶下ラ治スルニ甚  
良ナリ且オ一揮即ブリュインヘイリゲ用ユヘシ數多、妇人之ヲ  
長服ノ如此物ノ下血ラ治スルラ屬之ラミル。アリニス曰此草ヲ  
前項及頭上ニ及ハシモノニ貼シ而頭痛ラ治スト。又曰小瘡及諸  
瘻内ノ頭上ニ及ハシモノニ貼シ而直腸ノ諸病ラ治スト。恩瘻  
ノ疾兒頭上ニ及ハシモノニ貼シ之ラ治スル「甚速ナリ」此物ノ計  
量ヲ知メ耳痛ラ治ス宜ク耳中ニ注クヘシ或曰スユルベンテレン  
セースコルビウニ蛇乃目篤ノ毒物ヲ治スニ用エト。又鹽ヲ和メ  
猶大咬傷ニ貼シ速ニ治ス。アリニス曰此物牛乳入ルハ  
酸味ラ王スナリ且酸妝液ヲ犯シ是以孔ヲ飲シト要セハ之ニ

サクヨンニカヘテ甚良す。何者乳汁ヲ飲テ致ス处ノ病人、  
毎見ニ處所謂呼吸短息ヲ癪ス。右ノ功アルヲ以テ又羸弱  
ヲ拒ク。何者男子ノ精ラメ凝濃セサラシメ之ラ稀ニ薄ニス。ヨコスコ  
リテ又曰此草ヲ交接ノ時ニ当テ妇人ノ陰部ニ拂シハヌ。及  
拒クト。

**根修** 此艸ノ佳品ヲ希望セハ宜フオ一種即ブリュインヘイ  
リテコ用ユヘシ他種ヘ其功シヤズ。

**害** 此草ヲ長服シハ婦人ノ更胎ヲ拒ク是ヲ以テ子孫衆  
多ラヌ。嘗スルモノハ宜クララ用ヒテナホヌベシ。  
**附言** 往古ヨリ戰争ノ時ニ当テ此ミエンニラ喫ス。ソ後アリハ  
アリストテ匹カ云處ノ如ク之ヲ食ハヘ人ラソ満情ヲ起發セレム。其  
満情ヲ發スルニ至テハ廻ニ身軀ノ力ヲ損スルニテラス。精神ノ

剛勇カラヌカ為フリ。是以廻ニ戰争ニ不適也。ミコラス夫ノ議  
空裁政ニミ宜カラス。何レニモ戰争ヲ起スニハ銳峻ヲ貴ベハアリ  
○

**修模** 此草前供エント要エハ宜リヤ。産ノ其葉葉ニ敏文也  
モノ用ユヘシ

主治

圓王

アーフルフードヘキト

漏ラ駆リ治石食ラ消ス。此水醋ニ和シ服ノ圓錠ラ投ス。或云  
諸種瓦新生未熟ナレモ猶温燥オニ度ニ至ル况シヤ丸クキハ三度ノ  
温ニ至ルヘシ中ニ就キ墨牛ノモノハカクヨリ熱ナリ。此草水煎シ  
三日服ス。ハ腸痛ラ駆ト。以酒服則妇人ハ難産ヲ助ク。此草  
乾麥ノ末ヲ和ノ病ラ駆消又宜ク其病上ニ貼ス。又妇人ノ丸  
上ニ貼ス。ハ況鎮寢解ス。墮塊旋絰セカラシムルニ甚良ナリ。

又此草ノ汁ラ以テ漱ケハ舌ノ粗麁ニナラス。此物ノ香人ヲ悦  
ハシムルラ以テ吾邦ニテハ野生ミニテラフステレイセルニ文セ寺ニ蒙。

二三ノ晝日ニ當テニラ撒ス

白堊生ノヨニシヒハ其功本抵カク。似タリ何者又腸痛ラ治シ厄  
逆不吐ラ鎮メ頭痛ヲ和スル。直ニアリュインヘイリヒノ如シ。

又胃ノ結石及肺癆ラ治スニ甚良アリ。宜ク酒ニテ煮、服スヘシ。又  
蜂及馬蠍ノ刺傷ト上ニ貼メ甚良ナリ。此物効瘡ラ治スト雖ニ  
尚又溼瘍ラ起發シ致ト。騰沸セレム。此物人立尺ヲ甚強クス  
コテシニ之ラメモイシトム。此露滴水三十枚ラ服ス。ハ鮮血ラ止ム  
。此露水人ノ淫事ニ功アリ都テ此中モ亦其功アリ。世葉ヲ  
少片ニ切リ露滴水を露水ヲ毎朝丸呑。服スレハ胃ヲ強健ニシ  
其消化ラ肺ケ肝脾ノ閉塞ラ開通シ尿ラ利ス。此ラ以テロヲ洗ヘハ  
呼吸氣ラメ自ナラシ。忠性ノ銀ノ脚ノ。之ラ内服ソナ子宮ヲ清  
潔ニシテ又外貼ノ乳、凝結固塊ラ治ス。又諸内葉及含嗽剤、  
物シ喉風ノ既ニ潰済スルモノラ治エ又小兒ノ疥癬之既ヘハ即チ  
既ス。ハ葉ニガク口ウレラ加ヘ心及胃部ニ貼メ死逆ラ治シ風氣  
ヲ駆ル。又其上ニ貼メ其脚熱ラ治ス。人モレラノツカラ。癰癧ラ思

ルアラハ宜ク此草ノ烟ヲ以テ天ノノ密易快復セヒシヨユシテ油  
其製法ヘエインルイニラ制スルカ如シ茲ニブリュインヘイリビラ取リ  
上好酒ヲ加テニラ作ル此酒ヲ外傳ノ衰後セル冒ヲ温暖シ化逆  
シ止メ吐ラシム有餘コレラノ諸症ヲ治ス此ヨレテ直ナ良功  
アリ也

ヨシニセイロ一ノ之ヲ大小ニ稀ニ制ス俱ニ曾ラ強壯シ所ラノ力  
アラレメガタ閑宴ヲ閑キ皮曾ノ清氣請淨シ吐ラ係キ厄逆ヲ  
鎮メ吐ラ止メ痢ヲ拒ク〇此草ハ中ニモ閑人又婦人莫香ヲ植ニ算  
ニ保持スルニ甚佳ナリ

殊用 世人ニ此草ノ漬汁又ハ葉ヲ煎汁ヲ以テ乾酵ノ中ニ注キ久  
葉ノミヲ其中ニ和ソ試凡ニ其ノソ腐敗エカラレト〇又瀝内汁  
ヲメ甚佳味ナラシム尚此種類ヲ諭説スルアリ次章ノ附言ニ詮シ

第工章 ローデウサルデミニンテ一名セイムブリヨン 紫花ラニギク  
品類 三種アリオ一種ノモノハ園生ミニンテ、大ニ似タリオ二種ノモノハ  
テオアラスニユスカ記スル處ノモノニメ園生ミニンテニハ似ズオ三種ハ異名レテ  
カクシミ子或ハワーテルレスセト云由之我僕ニラ冰草ノ部乃オニナ卷オ

## 十二章・記ス

形状 ロセイムブリヨンハウヰニミニンテノ二種ニメオ一種園生ミニンテ即  
ブリュインヘイリゲ、其似タリ圓葉方茎其色俱ニ深褐色ナリ根ハ  
遠行蔓延ス但其諸部ブリュインヘイリゲヨリ大ニ其香氣稍重シ  
花ハ茎ノ梢ニアリテ形チ球ノ如シ其色紫也

排草序 オニ種ノモノハ之ヲテオアラスニユスカロセイムブリヨント云彼是ラストロアリ  
アクトトイケンスコロイト一名カラニスケンスコロイデンメットスマルレブラーデビト  
名ク其香ハセヒールリュシ一名ウヰルテレテイヨリ惟其形ハ其種植ノ  
アラミトリ

養助ニ後テ容易ミ度メミユンテノ形ニ大ニ似タリ歟カ「ヨスヨリテス」考  
セイムブリュントハ異シ何者モ後テ施スル處ト解ルミユントハ之  
養助ヲカフト雖ア羽ク其形狀シテ大ニ似タ園生ミユンテアヌ真  
ブリュンヘリゲニ似カルナ

**出處**ウサルテミユント名セイムブリヨハ下湯ノ地及曠野ノ潤氣アル處  
及溼地水流ノ處及河邊ニ生ス

**時序**ウサルテミユント及オニ種ノミユンテモ丑ニ夏月葦キ毎ニ春  
ニ至テ新芽ヲ生ス

**名義**此草モリレヤシセイムブリヨント云フ「シセイムブリヨト云フ」  
ドイツヘロツスミュンツワツセルミユンツト云フランスシメンタエアガト云ヒ

**和蘭**ウサルテミユント是ウサルミユント分別セシガ  
ナ

**性**セイムブリヨテオフラニユハ其性ヲ記セサレ五ニ後テ斯ニ諸  
セレ是シ我後ウサルミユンテ二種ニ元ツモノニレ性溫ニ燥カト

直ニニユンテノ如シ其香尚甚強レ

**主治**人此草ヲミユンテ用ル處ニ用工具上疇ス馬覬刺傷ノ又ア  
治ス○其他木々治法アラス是ミユンノ功ヲ悉皆偶有シ尽ソ

人ノ貨ヲ適宜ニ增益スヘキヲ見ル猶可考

**附言**此草ノミユンテ多分ウサルニニレト一名ヲ以テ和ルガ薺ニ不  
書ルトテルミユンテト相待タガル要ス

**品相**ロベル皆此ミユンテ謾メシタ下名ルハ是其香ノ猪ヲ打起スア為  
チアリニスハ別ニ其考アレ瓦柯リレヤシテハ之ヲ「ナオスモス」云尚具香ノ

佳ナル故ニ此名ヲ年スニ丘祖ニ佳香アルアラズトガレニユム之ヲ駁セリ則モ  
アオアラスチユス曰ヤリシヤレニシメ或ミントストムハ其多毛ノ鷺也  
何者シトスハシタ毛全又灰色モアルモノ義ナリ凡ソ濕物及傷敗物ヲ大陽ノアメル處ミオケハ丘祖ニ如也  
ルトリ即諸草ノ液汁ノガ間ク脾ノ氣モノ本レ有錦加也モノレテミトス大陽ノアメル處ミオケハ丘祖ニ如也  
其禍也シヌ美ニシ毛モシモハ馬生ニシテノ類ナニカラナチニビ取トス由はカラメンタト五見  
美メンテヌ毛ニシテノ義ナリ

三ハ葉漏シ四ハ圓ク「コルデ」葉ナリ。五ハ葉、サク尖ニ。諸種ヨク和易

シ其聲ニシ兄ニ且無用ニ属スレ丘廣アノ記ンカ為ニ論スニ

形狀ウキルミニンテツルシウスカ記スメンタストリユムニ二種アリ之ヲカツテコ

イドノ附言ニ記サン。ウキルミニンテ变化ウキルミニンテ一名ワーネルニ

シ近其別ハブリュインヘイリゲ、似タレ瓦葉ナ大アリ是ハワーネルミニンテ  
ニ變シ其養助スルト否ラルトニ田テ又自ハブリュインヘイリゲ、再化ス  
○化種ニモヒユシテノ名ヲ冒スニ者アリ戒具右處即ハシメガレカ  
或ハリラセカ自餘ノ篇ニトカン

カラクテンハシウキルミニンテエイゲテレイキメンタストリユム此ウキルミニンテ

ヲ園生ノミエニヨリハ其功芳レリト云トイ凡尚其本體ノ功ノ甚敷著  
ハモノアリ則下ニ記ス。○此ウキルミニンテノ液及煎汁女人<sup>ヲ</sup>不<sup>可</sup>晚<sup>セ</sup>シム  
又其湯ニ<sup>ノ</sup>草ヲ入レ煮テ呼吸促迫甚切アリ其ラメ復  
未<sup>シ</sup>サレシム又腹痛ニ良ナリ。又其液計ヲ陰部ニ塗ニモ而右ノ功ア  
リ。又右ノ煎汁ヲ黃胆病ニ用テ大功アリ。醋ヲ和シ服ソ毒蟲ノ刺傷ヲ治ス  
墨ヲ殺ス。此葉ヲ一二ノ液計ヲ以テ飲服ソ毒蟲ノ刺傷ヲ治ス  
○此葉ノ食料ニシテ用ヒサハ其香ノ甚重キカ考ナリイタリヤニテ  
唯鷺人萬々湖水又ハ沼池ノ魚ヲ此草ヲ以テ煮又ハ蒸燒ス  
是其烹味ヲ陰カシ考ナリ。之ヲ地上ニ展布シ或ハ燒クリハ其香  
烟ヲ以テ蛇ヲ驅リ且蟹ヲ殺ス。此汁ヲ耳中ニ滴メ多虫ノ耳大功  
アリ。此草ヲ搗キ汁ヲ領或自餘ノ患处ニ塗テコロアヌケル

及ヤリイ止<sup>フ</sup>治ス〇此ニサノミヲ外傳<sup>シ</sup>狂犬咬傷<sup>フ</sup>治ス〇此ニサルテ  
ミエニ<sup>シ</sup>ノ露水前<sup>ノ</sup>諸症<sup>ノ</sup>癪生<sup>ミエニ</sup>テ<sup>フ</sup>用イレ處ニ用エ是ヲ<sup>シ</sup>別ス  
ル人ナレトイヘ反<sup>テ</sup>菌生<sup>ミエニ</sup>テヨリハ其功勝<sup>シ</sup>レ<sup>フ</sup>遠キ<sup>フ</sup>以テナリ〇  
此水鼻孔<sup>ニ</sup>注<sup>テ</sup>頭<sup>ノ</sup>患液<sup>フ</sup>清潔<sup>ミス</sup>又沐<sup>ゲシ</sup>浴<sup>セシム</sup>后ニ用<sup>テ</sup>腸<sup>モト</sup>  
取<sup>フ</sup>

